

改訂版 金太郎 公共交通計画

小山町 地域公共交通網形成計画



富士山頂と金太郎のまち おやま

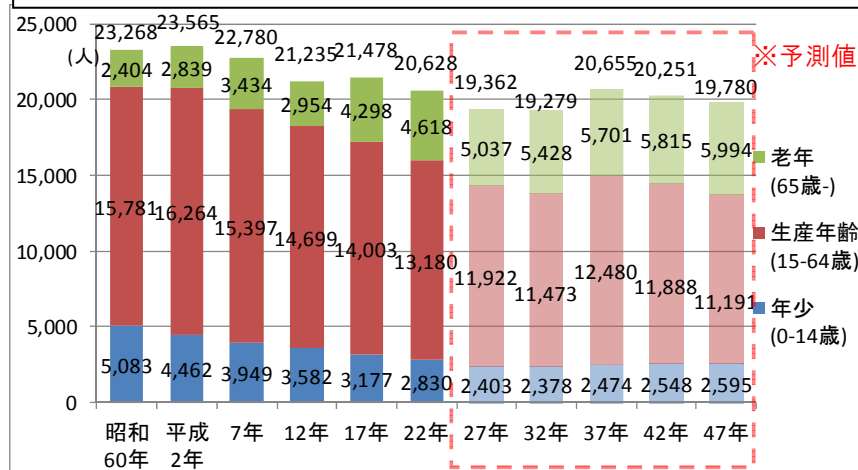
平成 28 年 6 月

静岡県 駿東郡 小山町

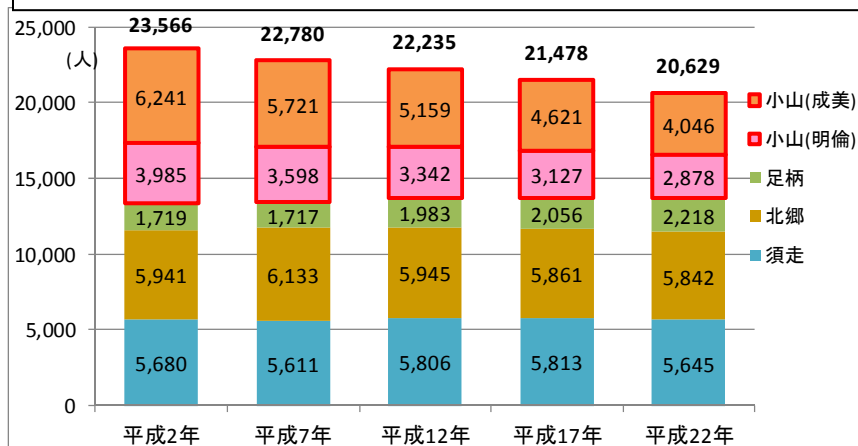
1. 小山町の公共交通の現況

(1) 小山町の現状

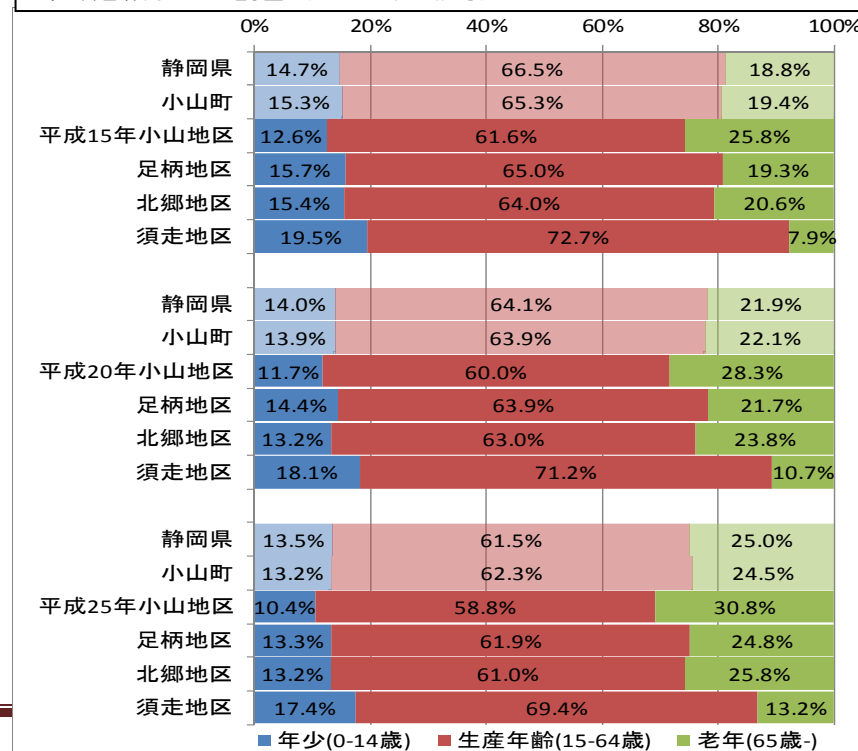
人口の推移（国勢調査、予測値は小山町総合計画）



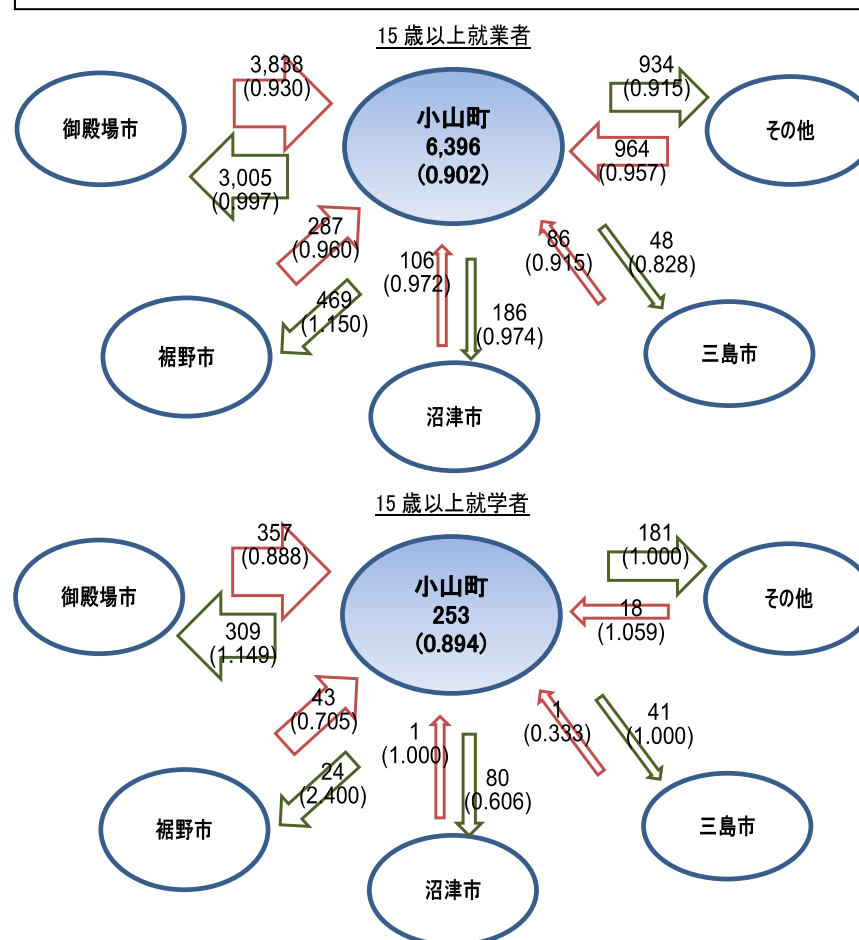
地区別人口の推移（国勢調査）



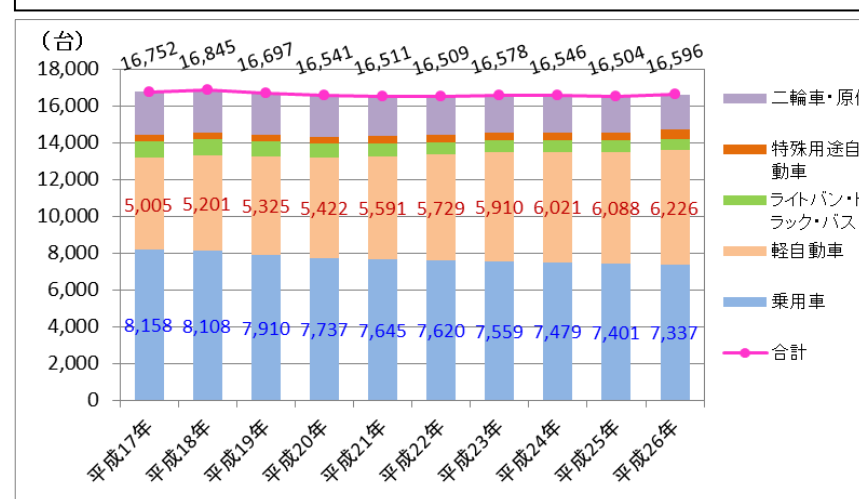
年齢階級別人口割合（住民基本台帳等）



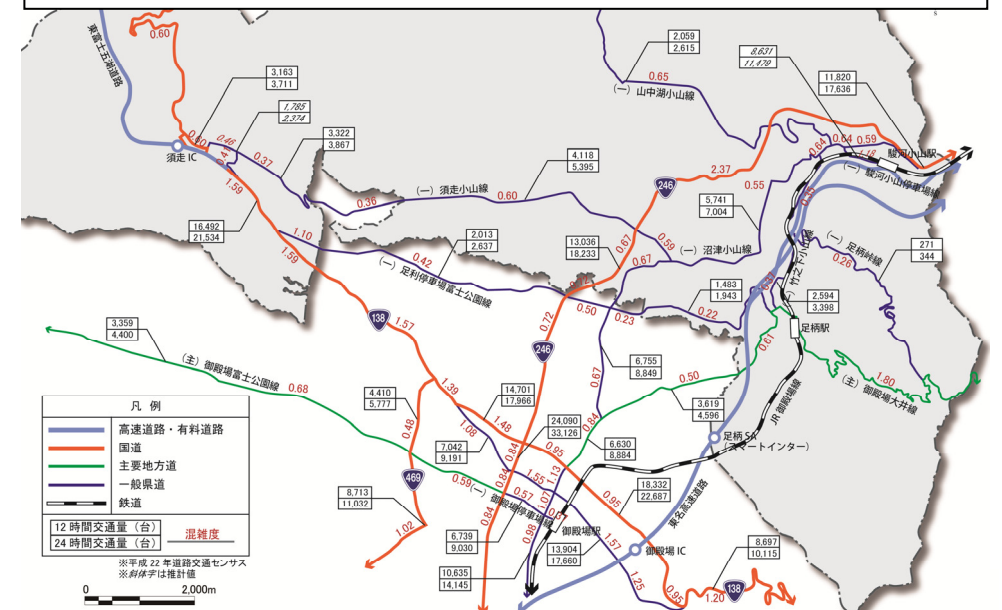
通勤・通学流動状況（国勢調査：H22）



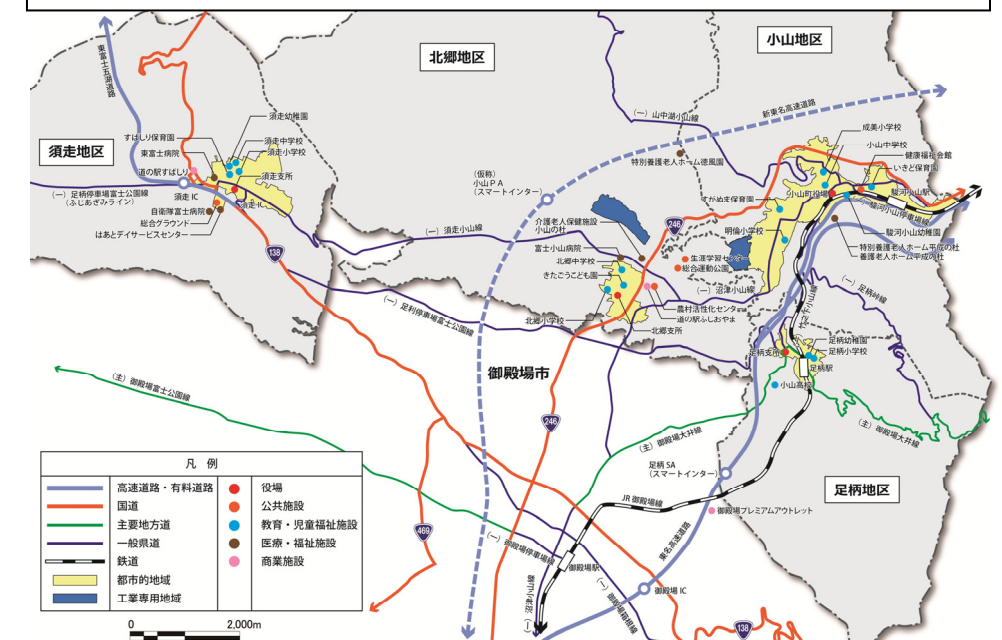
自動車保有状況



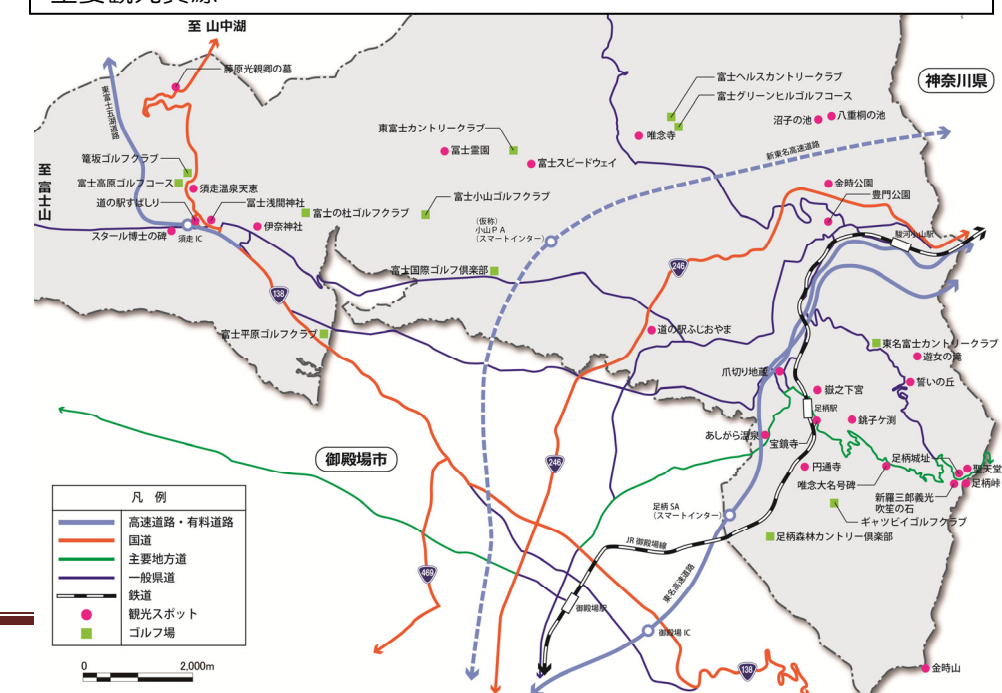
道路交通（平日交通量H22 道路交通センサス）



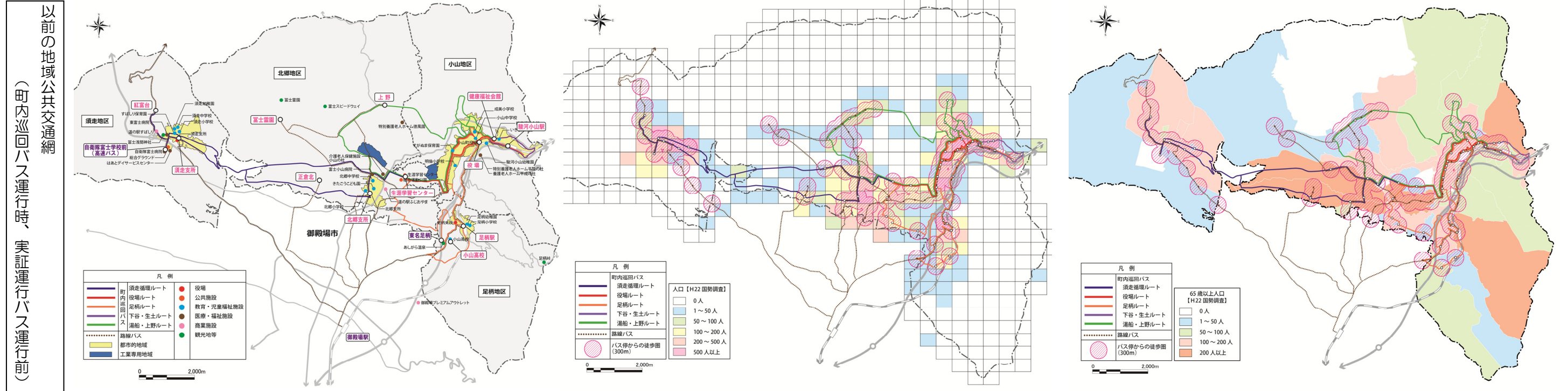
主要施設



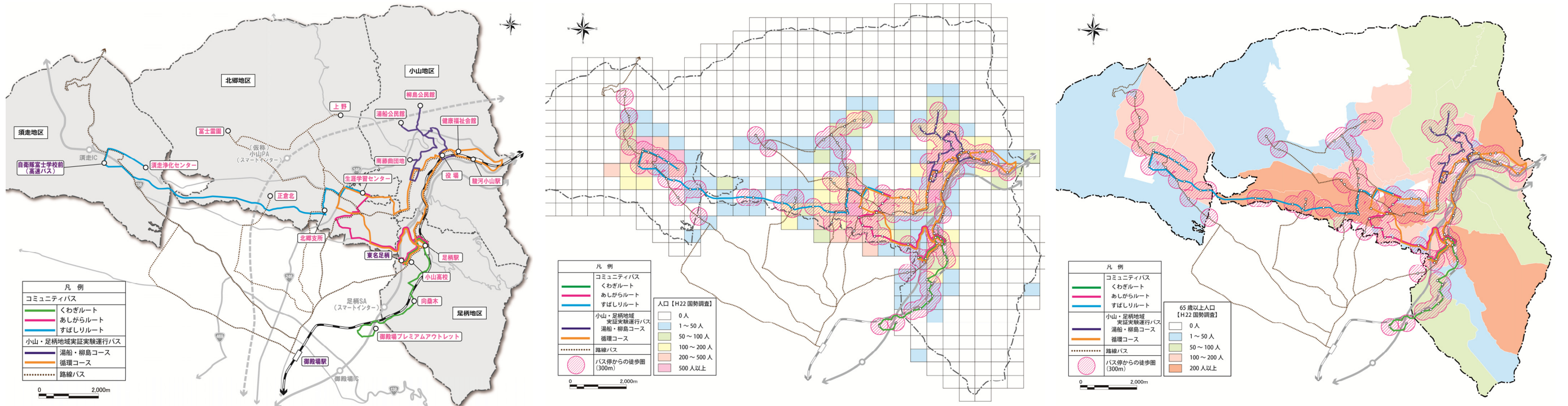
主要観光資源



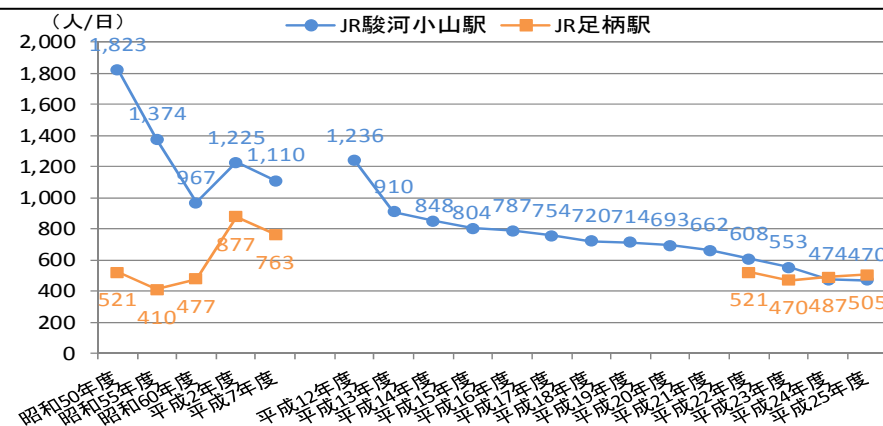
バス停勢圏と高齢者地区別人口（H26.5 時点）



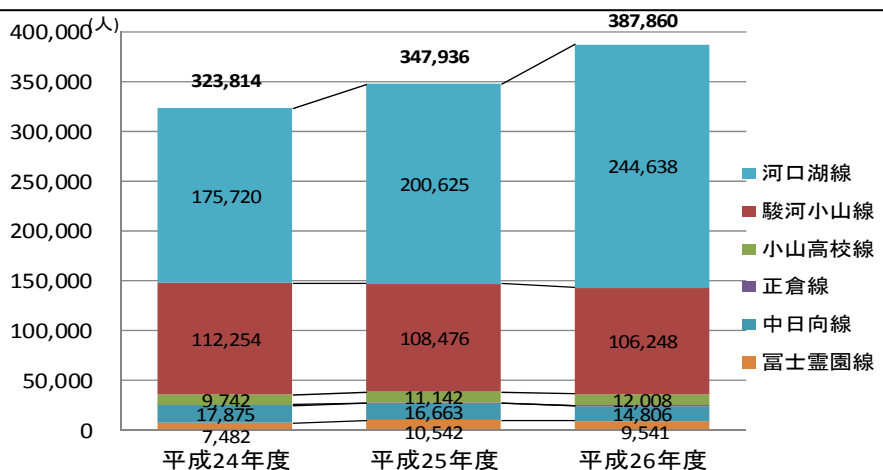
現在の地域公共交通網
(コミュニティバス再編後、実証運行バス運行後)



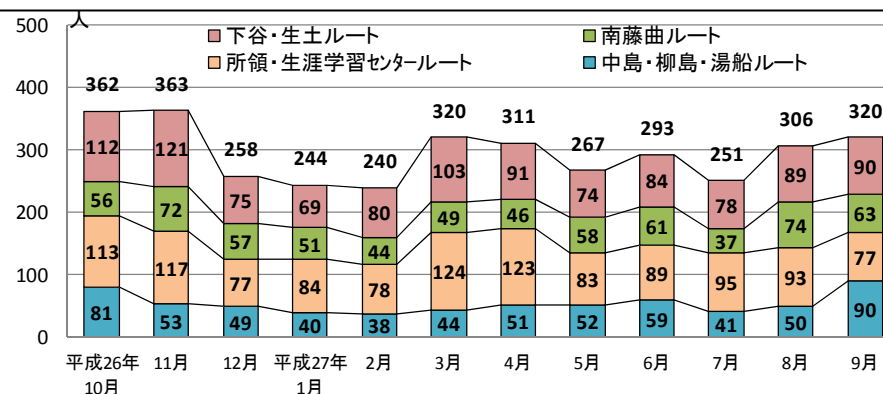
JR 駿河小山駅・JR 足柄駅（JR 御殿場線）の年度別利用実績の推移



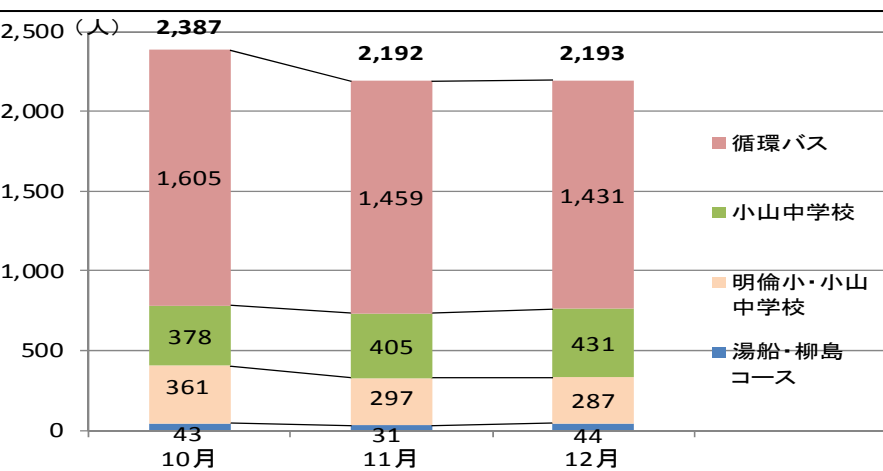
無料調査運行バスの利用者数の推移



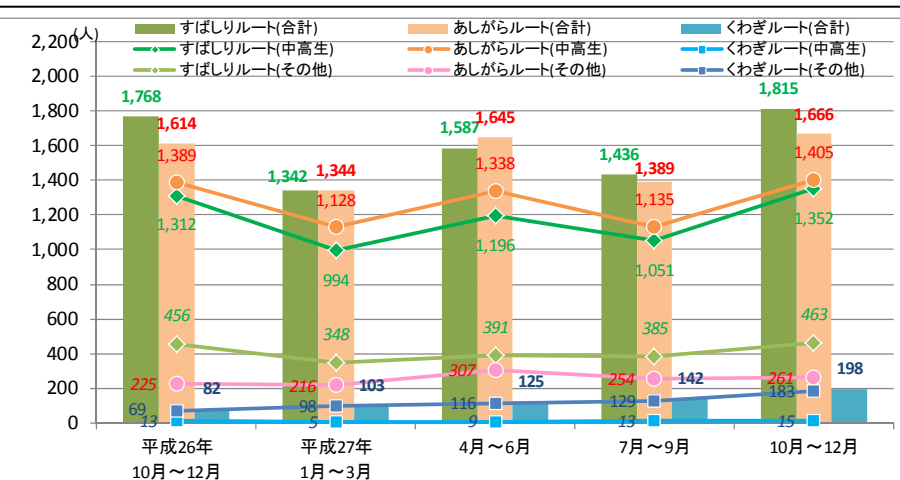
無料調査運行バスの利用者数の推移



実証運行バスの利用者数の推移



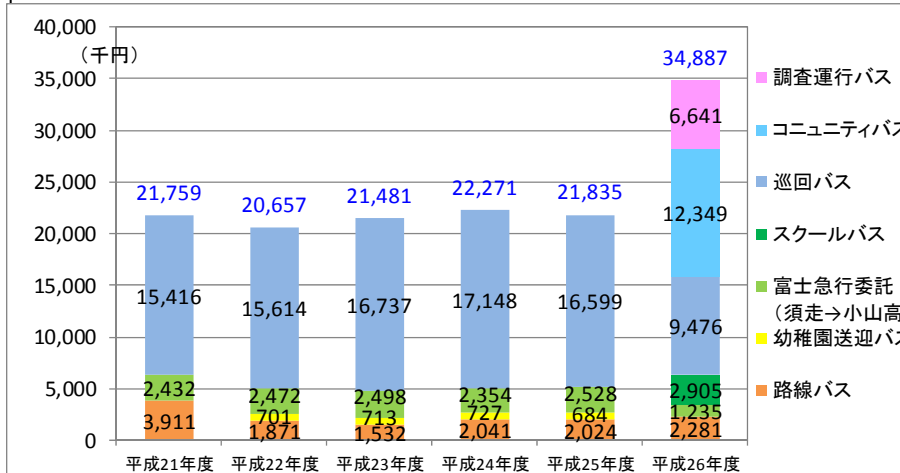
コミュニティバスの利用者数の推移（3 ヶ月単位）



※コミュニティバスの利用者数について

- ・町内巡回バス時点(平成 26 年 9 月まで)は、スクールバスの利用者を含んでいた。
- ・コミュニティバス(平成 26 年 10 月から)では、幼・小・中の通学を除く。
- ・無料調査運行(平成 26 年 10 月～平成 27 年 9 月:年間 3,535 人)、スクールバスを考慮すると有料化以降の平成 26 年 10 月～平成 27 年 9 月の利用者は 40,001 人となり、平成 25 年度の 37,913 人よりも増加している。

バス運行関連経費



※平成 26 年度の運行経費について

- ・平成 26 年 10 月からのコミュニティバス等の新たな運行に係り、運行や車両を管理していた職員の人件費が減少したものの、運行の充実や車両の減価償却の新たに発生により、費用が増加している
- ・一方で、運行を委託に切り替えたことにより、運行に関する町のリスク(運転手の労務管理や事故対応等の保険や対応リスク)は減っている



○富士急行(株)による小学生へのバスの乗り方教室

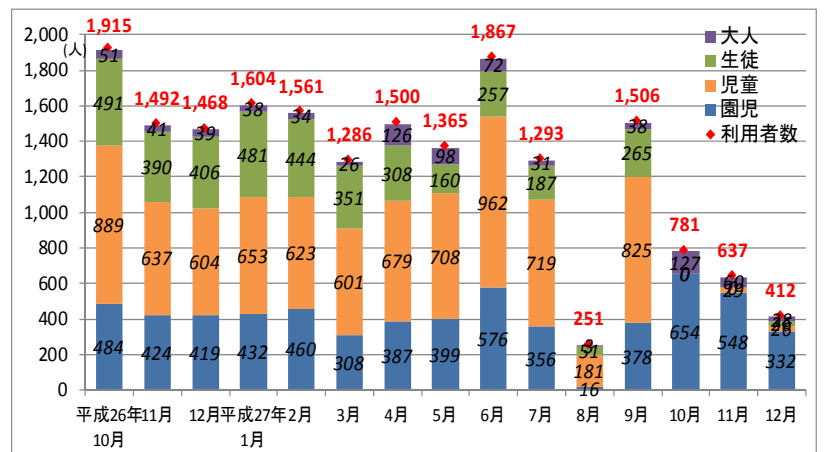
その他バスの運行状況

○高速バス

バス停	方面	バス停	方面
東名足柄	東京駅行	東名小山	東京駅行
	名古屋駅行		箱根行
	箱根行		新宿行
	新宿行		羽田空港行
自衛隊富士学校前	東京駅行	御殿場駅	横浜駅行
	横浜駅行		東京駅行

○スクールバス

- ・駿河小山幼稚園
※専用マイクロバス
- ・成美小学校、明倫小学校、足柄小学校、小山中学校
※平成 27 年 10 月より実証運行バス及び路線バス利用



○ハイキングバス・登山バス

【駿河小山駅⇒明神峠】

- ・運行期間：平成 27 年 4 月 25 日(土)～11 月 29 日(日)
※1 便/日・片道運行

【御殿場駅(小田急新松田駅)⇔須走口五合目】

- ・運行期間：平成 27 年 5 月 16 日(土)～10 月 25 日(日)
※3～14 往復/日

○病院・医院独自の無料送迎バス

- ・富士小山病院
- ・東富士病院
- ・町内医院、御殿場市内病院 等

○富士霊園バス

- ・駿河小山駅、御殿場駅、小田急新松田駅⇔富士霊園
※平日無料バス運行、土日路線バス運行
- ・新宿⇔富士霊園
※小田急直通墓参バス
※毎週土曜・日曜、祝祭日及び 3 月～12 月の金曜運行
- ・東京(横浜経由)⇔富士霊園
※市川観光直通墓参バス
※毎月第 1・第 3 日曜日運行

2. 地区別懇談会

(1) 平成25年度地区別懇談会の報告

■第1回

【懇談会参加者】

地区名	開催日時	開催場所	参加人数
足 柄	平成 25 年 9 月 5 日（木） 18:30～	足柄地区コミュニティセンター ホール	30 人
小 山 （成美・明倫）	平成 25 年 9 月 6 日（金） 18:30～	健康福祉会館 会議室	28 人
須 走	平成 25 年 9 月 9 日（月） 18:30～	須走地区コミュニティセンター 研修室	27 人
北 郷	平成 25 年 9 月 10 日（火） 18:30～	総合文化会館 会議室	27 人
計	--	--	112 人

【懇談会の様子】

足柄地区



小山地区



須走地区



北郷地区



【懇談会概要】

公共交通の現状を説明し、将来の都市のイメージを共有したのちに、将来の公共交通に向けて課題となることを議論した。各地区で班毎に「利便性について」「利用者確保について」「接続性について」「その他」に分類して整理した。

【懇談会結果】

- ・「運行ルート」「バス停の位置」「運行時間」「運行本数」の改善が全体的に求められており、利便性の向上が最も求められている。
- ・足柄地区や小山地区では、利用者確保として「車両、デザイン」の改善が、持続性として「有料化」が求められている。
- ・その他、「周知」など、バス運行の PR やわかりやすさが求められている。
- ・なお、少数意見でも幅広いアイデアが出されており、住民視点による小山町の特徴を活かした議論が今後も継続できる体制が期待できる。
- ・参加者の多くが普段、自動車を利用している人であったが、自動車を利用できない人や高校生等の意見も踏まえ、存続させていく方向での議論が多かった。
- ・熱心な議論によって進められ、公共交通が住民の重要な課題として認識されていた。

表 地区懇談会における課題の項目として挙げた班の数

集計項目		足柄	小山	須走	北郷	合計	
利便性について	運行ルート	6	5	6	4	21	88%
	運行本数	4	4	5	4	17	71%
	運行時間	3	6	5	5	19	79%
	料金	2	2	4	3	11	46%
	時刻表	2	2	1	0	5	21%
	乗り換え・接続	4	4	0	3	11	46%
	バス停の位置	5	6	5	4	20	83%
	スクールバス	3	2	1	3	9	38%
	バス停の整備	1	1	2	2	6	25%
利用者確保について	車両、デザイン	6	5	3	2	16	67%
	バス停の表示	1	0	0	1	2	8%
	周知	4	5	1	4	14	58%
	観光	1	3	1	0	5	21%
	デマンド型	2	2	1	2	7	29%
	回数券・ポイント・割引	3	4	3	2	12	50%
	運転手・車内環境	1	0	1	2	4	17%
持続性について	有料化	6	5	2	3	16	67%
	低燃費車両、小型化	3	0	1	4	8	33%
	組織	1	3	0	1	5	21%
	モビリティマネジメント	2	3	2	0	7	29%
	広告	2	2	0	1	5	21%
	継続見直し	2	1	0	2	5	21%
	ニーズの把握	2	1	1	1	5	21%
その他	広報活動	2	1	0	0	3	13%
	イベント・観光・レジャー連携	3	4	3	2	12	50%
	目的の明確化	1	3	0	0	4	17%
	タクシー活用	1	2	1	2	6	25%
	まちづくり	2	3	3	3	11	46%
	キャッチフレーズ・テーマ	1	1	0	1	3	13%

第2回

懇談会参加者

地区名	開催日時	開催場所	参加人数
小山 (成美・明倫)	平成 26 年 1 月 28 日 (火) 19:00～	小山町役場本庁 2階 大会議室	29 人
足柄	平成 26 年 1 月 29 日 (水) 19:00～	足柄地区コミュニティセンター ホール	22 人
北郷	平成 26 年 1 月 30 日 (木) 19:00～	北郷支所 2階 研修室 (大)	22 人
須走	平成 26 年 1 月 31 日 (金) 19:00～	須走地区コミュニティセンター 研修室	20 人
計	--	--	93 人

懇談会の様子



懇談会概要

利用実態調査の結果と公共交通の問題・課題から導き出される公共交通の基本的な方針を説明し、認識の共通化を図った。次に、バス停を整備するにあたって、項目ごとに誰が主体的に取り組み、誰がそれに係るのかを分類した。各地区の班毎に普段の行動で行きたい場所を地図上に示し行動範囲や移動ルートを確認した。

懇談会結果

- バス停整備の主体としては、基本的には行政や事業者が主体となり、地区や個人が協力して参加する意向が強い。その中で、バス停の「名称の検討」「緑化、清掃活動」「設置場所の提供」については、地区や個人が主体となることも考えられている。
- バス停の「デザインの検討」「緑化、清掃活動」「設置場所の提供」「バス待合の整備」「広告の提供」「ベンチの制作」については、地区や個人での協力が可能と考えられている。
- 普段の行動の中で訪れたい場所は、町内の横断的な移動と JR 御殿場駅周辺をはじめとした御殿場市が多い。さらに、関東や中部圏までの広範な移動もされている。
- 小山（成美・明倫）地区は、小山町役場を中心とした地区内の目的地が集まり、明倫小学校付近の商業施設にも集まっている。須走地区の中心部、北郷地区と足柄地区へは目的地が点在している。他に、御殿場市内や関東方面・中部方面への広域な移動もある。
- 足柄地区は、JR 足柄駅周辺に地区内は集まり、小山地区方面・御殿場市内の目的地がある。北郷地区内にも目的地が散在するが、須走地区には登山口だけである。
- 北郷地区は、北郷支所周辺に目的地が集まっている。この他、町の中央に位置する地区のため、小山地区・足柄地区・須走地区・御殿場市内にも目的地が散在している。
- 須走地区は、須走支所の周辺に目的地が集まっている。この他、御殿場市や北郷地区には目的地があるが、小山地区・足柄地区には目的地は限られている。さらに、新松田駅までの路線バスが自衛官から求められていることも聞かれた。

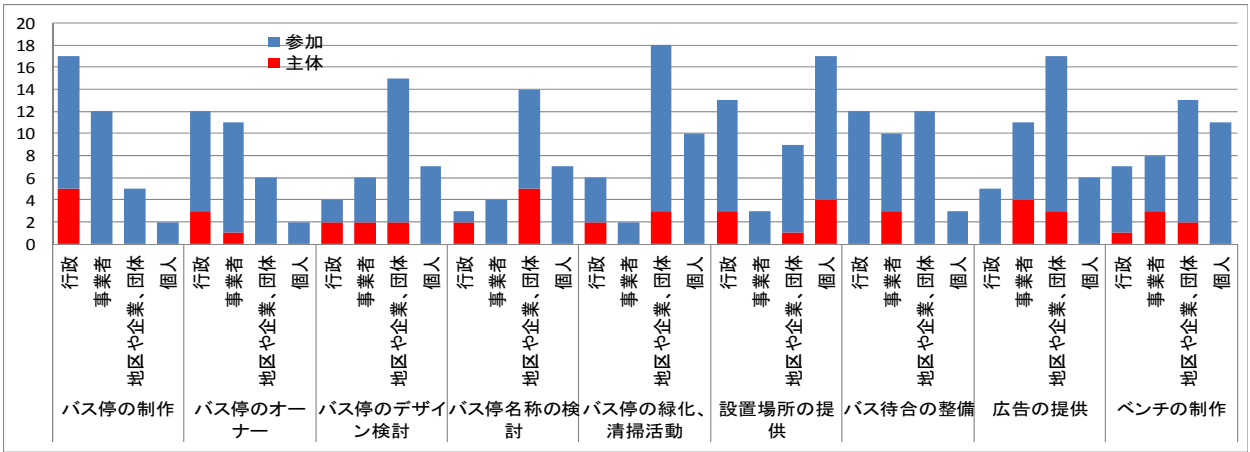
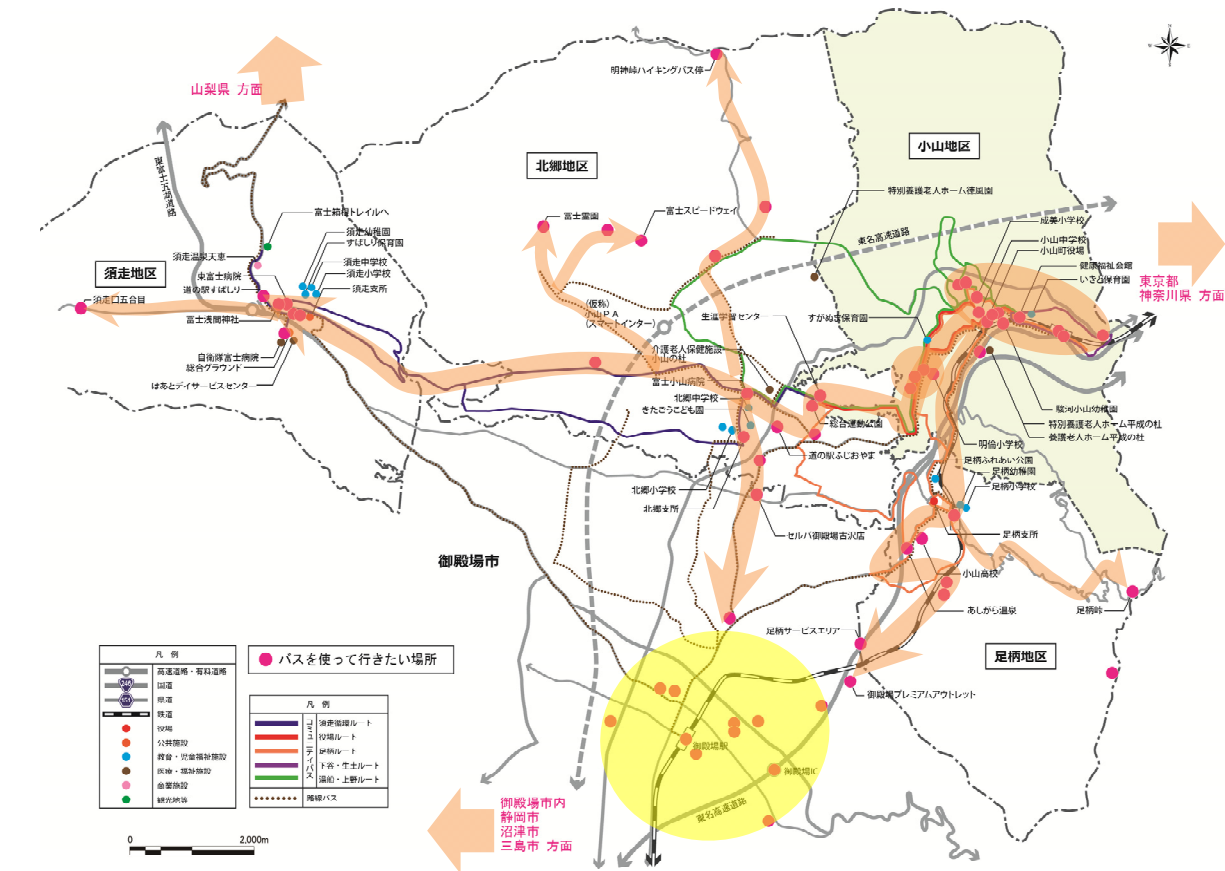
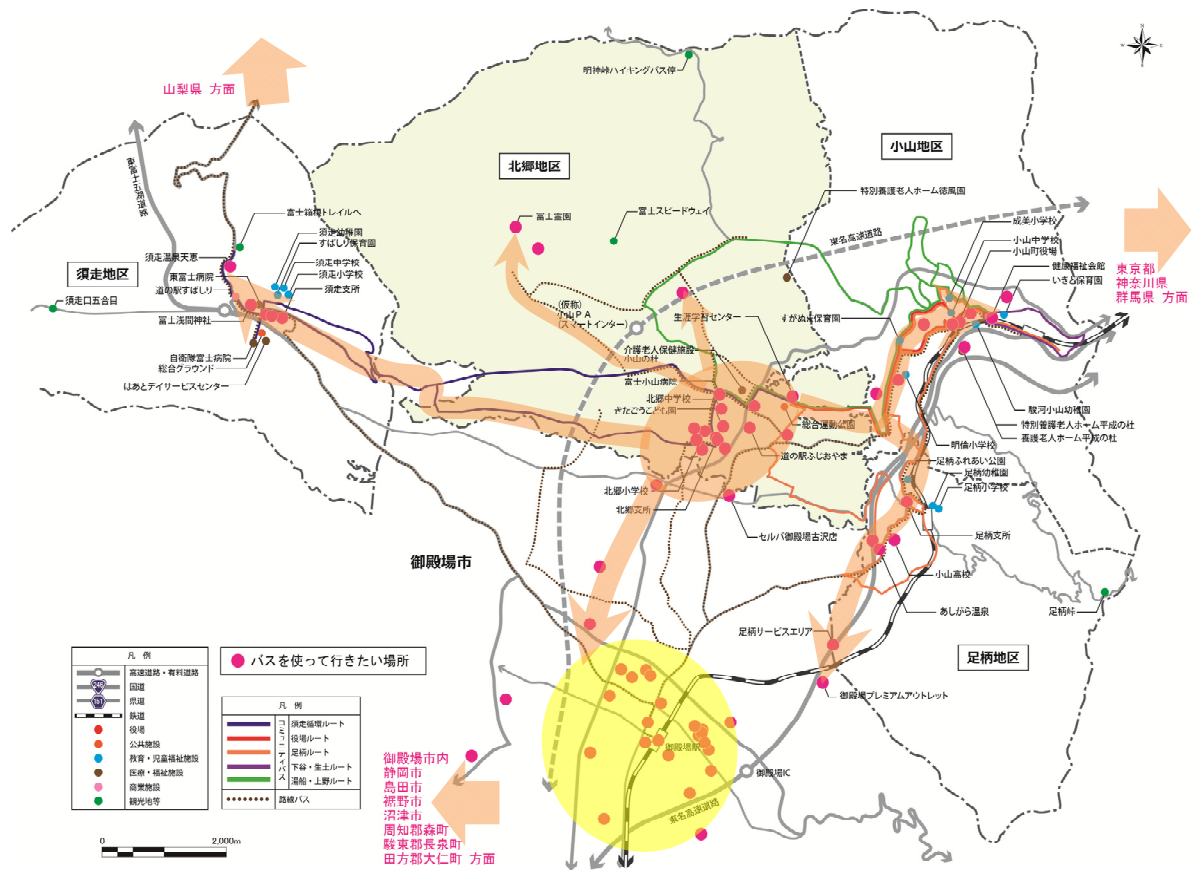


図 地区別懇談会におけるバス停整備の主体のまとめ (全地区合計)

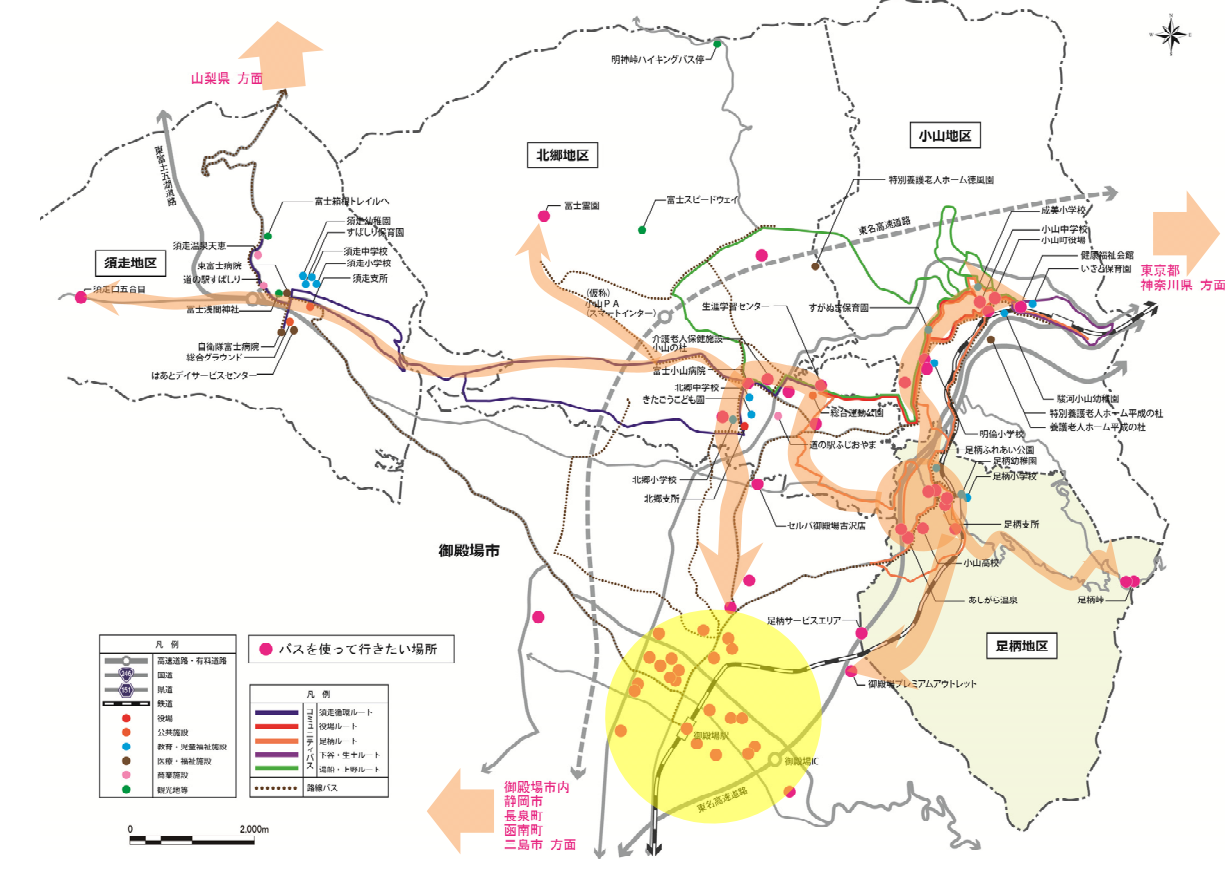
【地区別懇談会における各地区の主要な立ち寄り先のまとめ】
小山（成美・明倫）地区



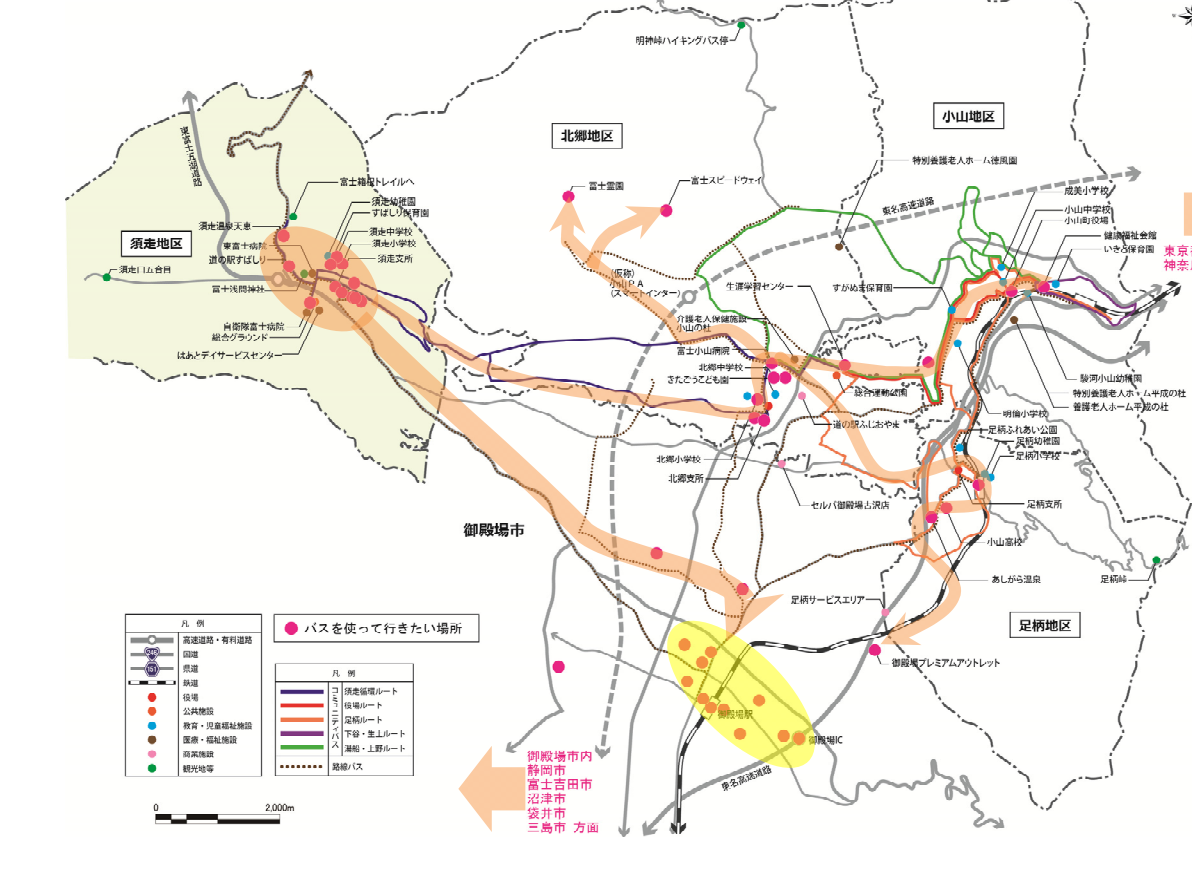
北郷地区



足柄地区



須走地区



(2) 平成27年度地区別懇談会の報告

■第1回

【懇談会参加者】

開催日時	開催場所	参加人数※
平成27年12月19日(土) 10:30～	総合文化会館 会議室	小山地区 15人(4班) 足柄地区 15人(3班) 北郷地区 12人(3班) 須走地区 8人(2班)

※行政・事業者のテーブル参加者も含む

【懇談会概要】

事前にバス利用券を配布し、当日に公共交通によって会場へ来てもらった(当日の利用が困難な場合は、事前に利用)。この公共交通の利用体験を各班で共有し、その後、各公共交通は誰のために運行するのかを議論した。最後に、公共交通を計画する上で考えないといけないことをまとめた。

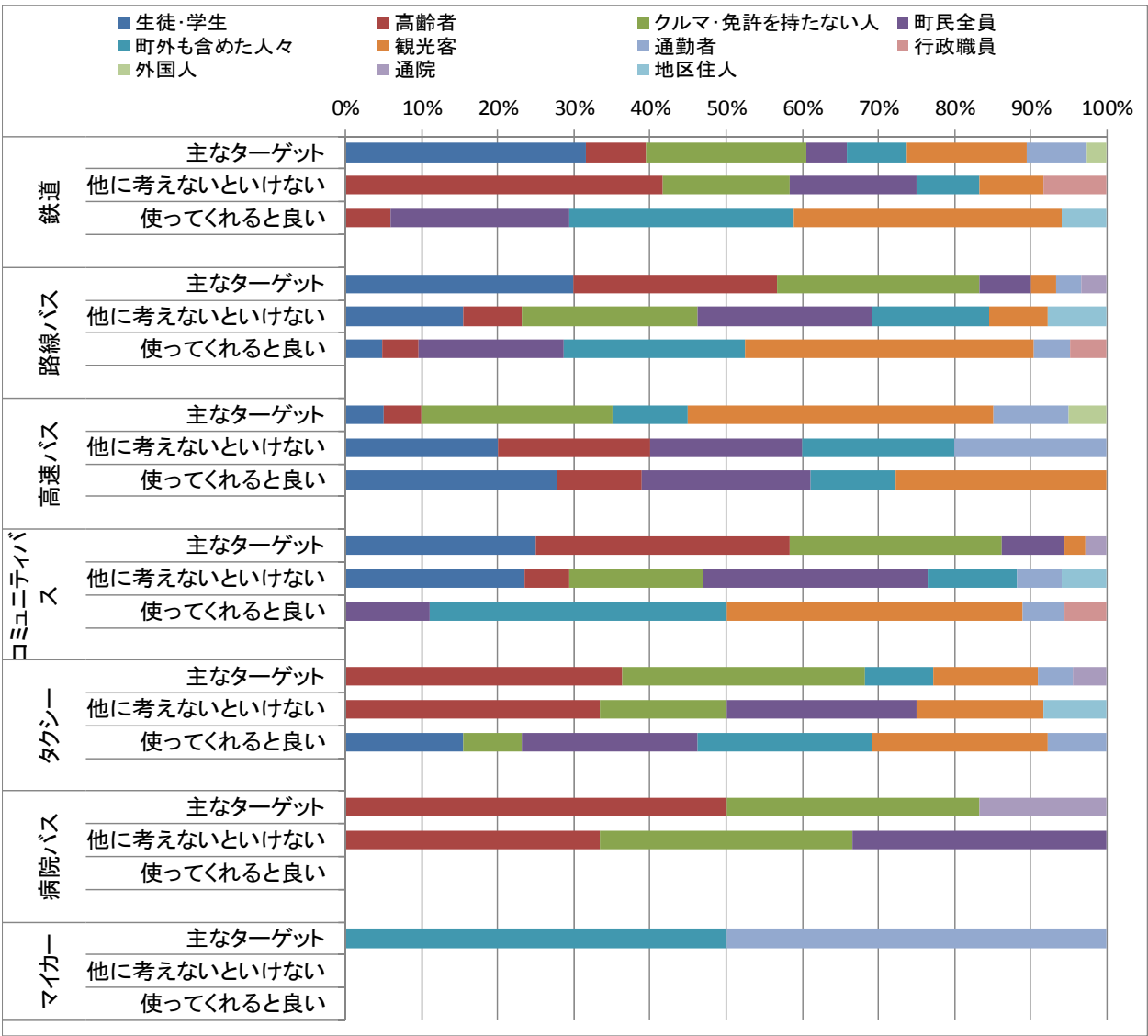
【懇談会の様子】



公共交通の役割として、誰を主体に考えていべきか、各班毎に議論してマークした。このマークされた結果を集計すると、鉄道は、「生徒・学生」「クルマ・免許を持たない人」が主なターゲットとして検討する必要があり、路線バスは、これに「高齢者」も加えた、主に自らクルマで移動できない人に対して考えるべきということがわかった。また、鉄道や高速バスは、「観光客」にも配慮すべきということもわかる。コミュニティバスは、主なターゲットの他に、「町外の人」や「観光客」にも使って貰いたいということも示された。

公共交通を考えるうえで、まず最初に自らクルマを使って移動できない人へ対しての移動手段を考えなくてはならない。このため、本町の公共交通が担う役割は、これらの人に対しての移動手段を確保するものであり、計画策定に当たっても、これらの人をターゲットに検討し、運行内容なども考慮しなくてはならない。また、鉄道や高速バスは、広域への移動を視野に、観光客をターゲットに考える。さらに、コミュニティバスは、これらのクルマを使って移動できない人の他に、町外の人や観光客へもアピールして利用者確保による継続的な運行を支えることも考えていく。

さらに、バスのわかりにくさや料金への指摘、新たな提案がされている。高齢者等のクルマを持たない人への配慮の他に、小中学生への補助金など、将来を担う子供たちへの意見もされている。本町の未来に向けて、子供たちに引き継いでいける持続可能な公共交通システムの構築が求められる。



※病院バスのとマイカーの空欄は回答なし
公共交通利用を考えなければいけないターゲットの集計結果(全地区合計)

種類別のターゲットのまとめ

	主なターゲット	他に考えないといけない	使ってくれと良い
鉄道	○生徒・学生 ○クルマ・免許を持たない人	○高齢者	○観光客 ○町外も含めた人々 ○町民全員
路線バス	○生徒・学生 ○高齢者 ○クルマ・免許を持たない人	○クルマ・免許を持たない人 ○町民全員	○観光客 ○町外も含めた人々
高速バス	○観光客 ○クルマ・免許を持たない人		○生徒・学生 ○観光客 ○町民全員
コミュニティバス	○高齢者 ○クルマ・免許を持たない人 ○生徒・学生	○町民全員 ○生徒・学生	○町外も含めた人々 ○観光客
タクシー	○高齢者 ○クルマ・免許を持たない人	○高齢者 ○町民全員	○町民全員 ○町外も含めた人々 ○観光客
病院バス	○高齢者 ○クルマ・免許を持たない人	○高齢者 ○クルマ・免許を持たない人 ○町民全員	
マイカー	○町外も含めた人々 ○通勤者		

※20%以上の回答があったものを抽出

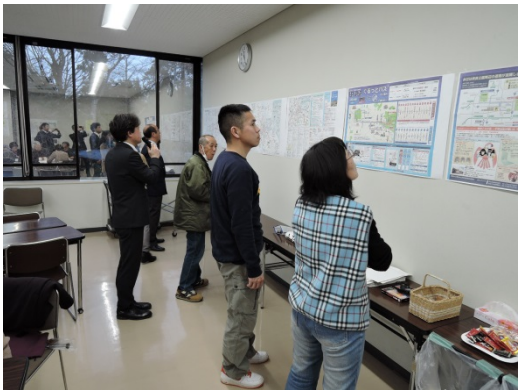
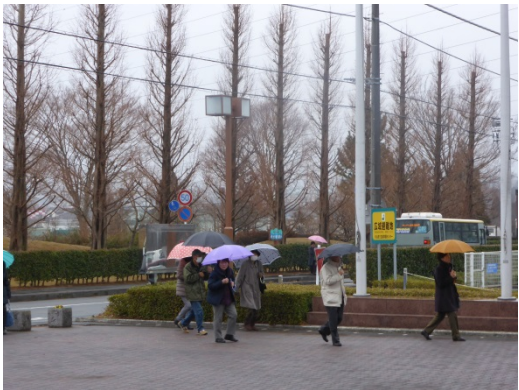
■第2回

【懇談会参加者】

開催日時	開催場所	参加人数※
平成 28 年 2 月 20 日（土） 10:30～	総合文化会館 会議室	小山地区 10 人（2 班） 足柄地区 9 人（2 班） 北郷地区 5 人（1 班） 須走地区 3 人（1 班）

※行政・事業者のテーブル参加者も含む

【懇談会の様子】



【懇談会概要】

本調査の内容を確認し、計画における良かったもの、気になったものを指摘してもらった。この結果を踏まえて本計画においても見直しを行う。また、今後作成を予定しているバスマップに盛り込む情報を示してもらった。

【懇談会結果】

本計画については、時間が限られたことから詳細な内容の理解までは至らなかったため、今後の取り組み内容についての意見も出された。全体としての計画策定の過程については評価を得られている。
バスマップに必要な情報についても、多くの提案がなされ、特に、見やすさやわかりやすさに加え、周辺施設や観光情報、サービス提携等の付加価値も求められている。

●バスマップに記載して欲しい情報

＜時刻表＞

- ・時刻表の表示を大きく印刷して欲しい。
- ・時刻表を分かりやすく。数字の羅列は見る気がなくなる。
- ・居住地域別の時刻表の作成、ポケットサイズの時刻表

＜乗り継ぎ＞

- ・通勤に利用出来るよう路線・乗り継ぎ等が分かるような案内図を各所へ貼り出す。
- ・公共交通への乗り継ぎ方法・時間
- ・電車や御殿場のバスとの乗り継ぎ

＜周辺施設の情報＞

- ・バス停近くの施設案内（病院、学校、ショッピングセンター、駐車場）
- ・病院関係
- ・写真で紹介する（周りの施設）。
- ・図にバス停の他にも降りる時の目安になる人が多く集まる所（公共施設以外も含め）を表記する。

＜観光情報等＞

- ・観光協会、案内所の場所へ、さらに JR 駅に案内所を設置する。町外の人を呼び込む。
- ・観光ルートを例としたルート表を掲載する。（モデルルート）
- ・細かな名所等を多く記載し、町民だけでなく、観光客も乗れるように作成する。
- ・バス停辺りの観光地やテレビロケ地も載せる。

＜利用者特典などサービス＞

- ・乗車のたびのポイント制を取り入れ。景品又はサービスの提供を行う。
- ・バス利用者が、飲食店・お店で割引を受けられる工夫をする。
- ・各ルート内で使える特典みたいな物を掲載する。
- ・町内の店の情報を載せる。

＜その他＞

- ・バスの乗り方（どっちから乗るのか、券を取らなきゃいけない、パスモ使える等）
- ・目的地に行くにはどう行けばもっと近いのか、分かりやすく。
- ・地区別に利用に合わせたルート表を作る（北郷⇒病院・買物（御殿場）⇒北郷）
- ・主なバス停からバス停までの利用例を載せる。
- ・乗用車の場合のガソリン代と、バス運賃を比較して告知する。

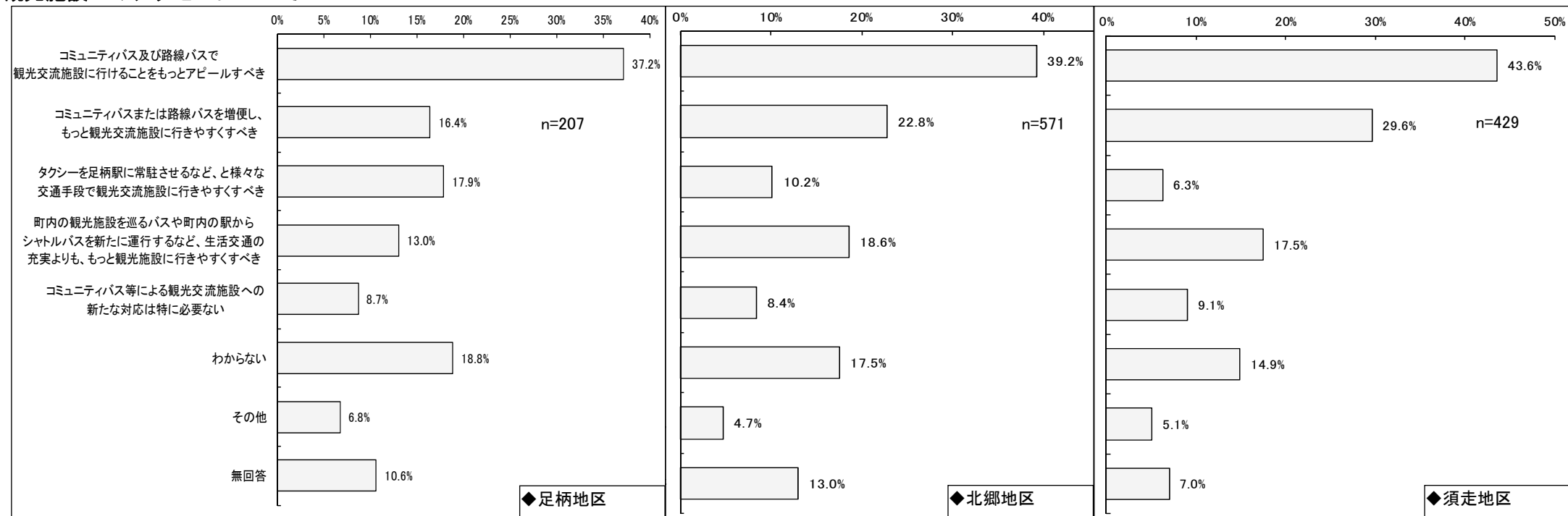
3. アンケート調査：地区別の比較

【調査概要】

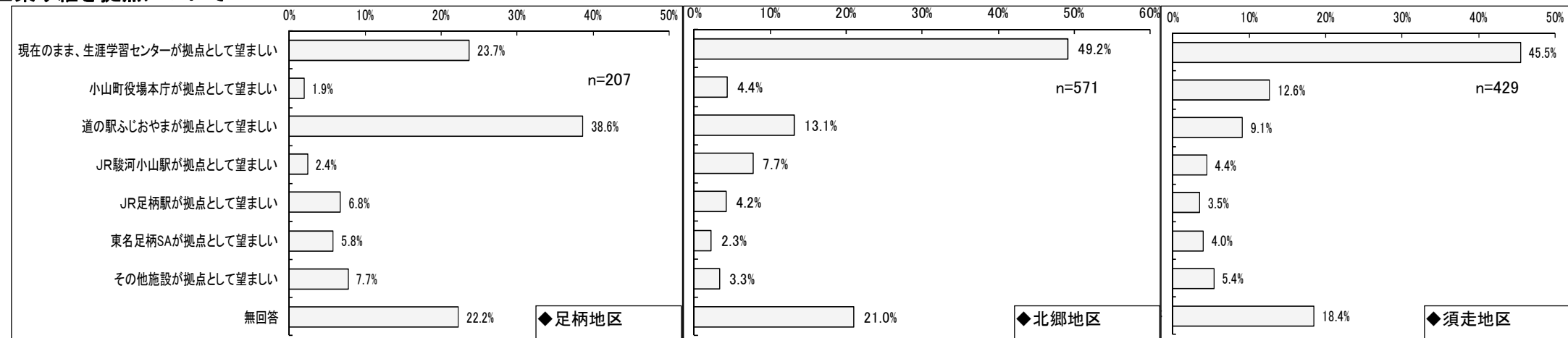
区 分	回収数	配布数	回収率	配布・回収
足柄地区（所領を除く）	207	400	51.8%	配布－平成28年1月18日（月）郵送 回収－平成28年1月31日（日）（郵送により回収）
北郷地区	571	1,100	51.9%	
須走地区	429	1,000	42.9%	

小山地区は、平成27年7月に実施しており、同一設問が無いため未掲載。

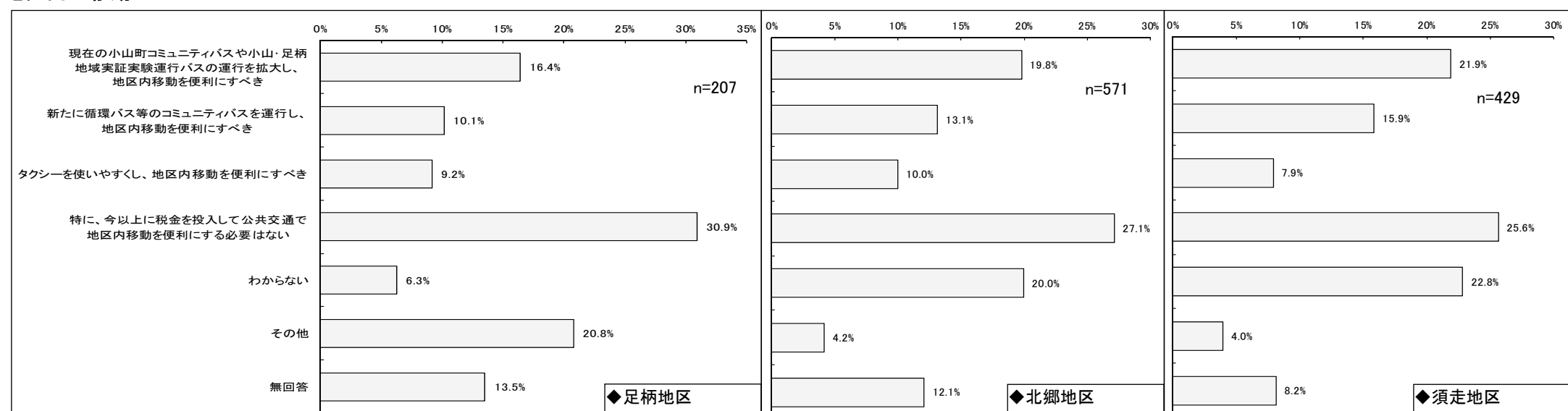
■観光施設へのアクセスについて



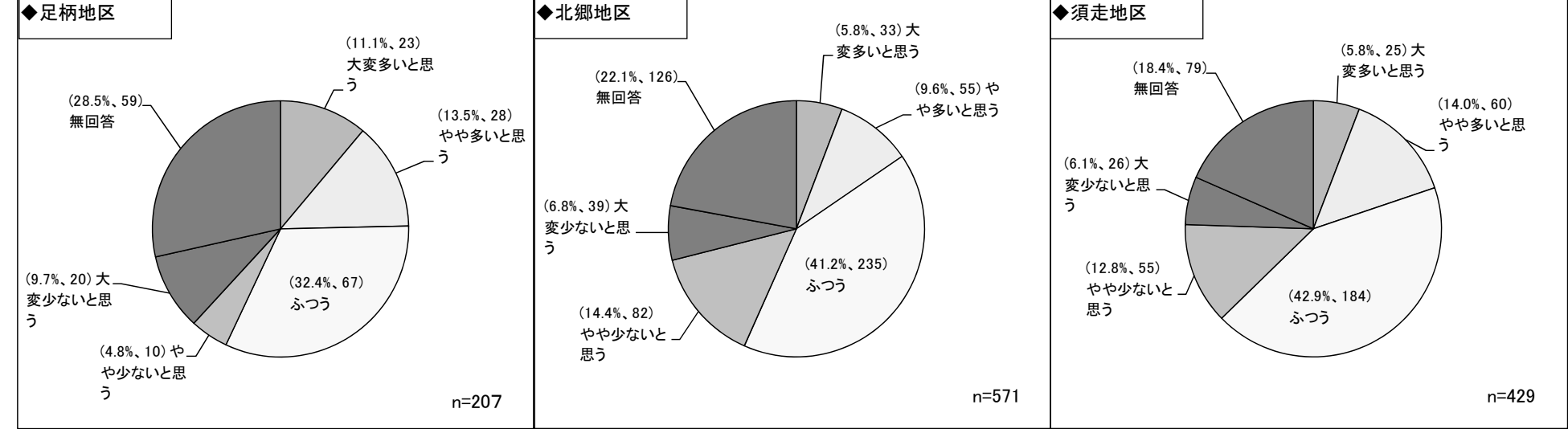
■乗り継ぎ拠点について



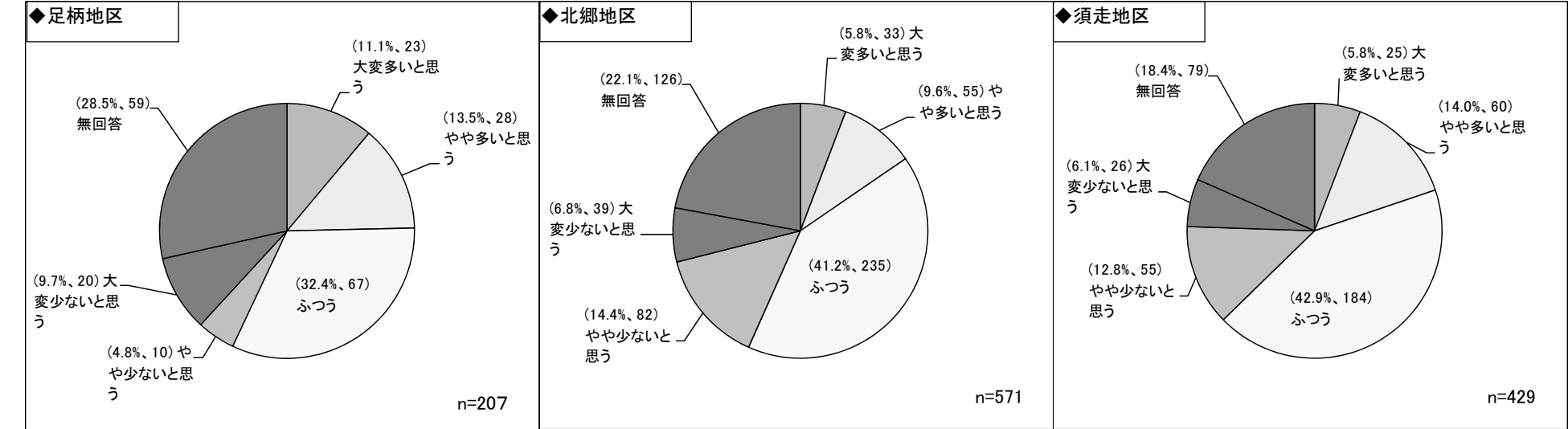
■地区内の移動について



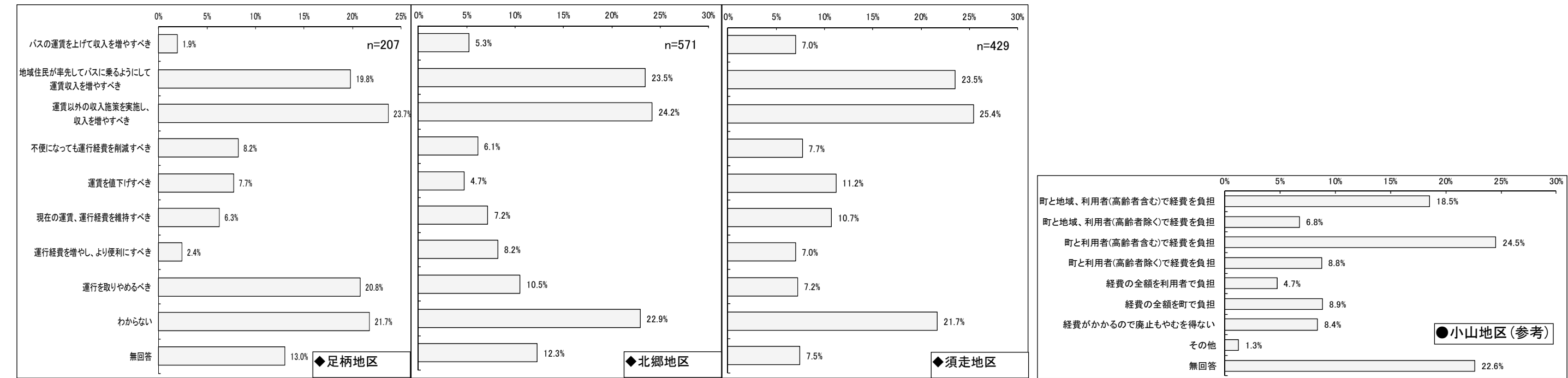
■利用者の負担額



■町の負担額



■今後の運行



4. 上位関連計画

(1) 第4次 小山町総合計画（2011～2020） 平成23年3月

“富士をのぞむ 活気あふれる 交流のまち おやま”

【公共交通に関する記載の抜粋】

■移動しやすい公共交通の充実■

＜目的＞

通勤・通学、買物や通院など、**だれもが利用しやすい公共交通を充実**することを目的とします。

＜施策の方向＞

(1) JR御殿場線の利便性向上と利用促進

- ①JR御殿場線の運行本数の増加やＩＣカード化の促進など御殿場線の輸送力増強、利便性の向上を進めます。
- ②パーク＆ライド※などの取り組みにより、JR御殿場線の利用を促進します。
- ③各種イベントとの連携などにより、JR御殿場線の利用を促進します。

(2) 新たな交通システムの検討

- ①住民、事業者など多様な立場のメンバーで組織する、「地域公共交通会議」を設置し、住民にとって必要な利便性の高い公共交通ネットワークの構築に取り組みます。
- ②利用者の参画を促し、地域の需用に即した生活交通のあり方について検討します。
- ③バス利用の促進や公的支援により生活路線の確保に努めます。

(3) 公共交通周辺の環境整備

- ①東名高速バス利用向上のために、停留所周辺の環境整備を推進します。
- ②送迎車両の交通円滑化など駅周辺の環境整備を推進します。

＜目標（指標）＞

指標名	現状値 (H22)	目標値 (H27)	指標の説明
公共交通に対する満足度	15%	30%	町民アンケートにおいて、「快適な公共交通が整備されている」と回答する割合

※パーク＆ライド：自宅から駅まで自ら自動車等で行き、駐車場に停めて鉄道やバスを利用する形態。

(2) 第4次 小山町総合計画（2016～2019）後期計画 平成28年3月

公共交通の活性化 《公共交通》

1 目的

まちづくり等の地域戦略の一環として、持続可能な地域公共交通ネットワークサービスを形成することを目的とします。

2 現況・課題

- 全国的に、モータリゼーションの進展、人口減少、少子高齢化に伴う通勤、通学の利用者の減少により、公共交通ネットワークの縮小やサービス水準の一層の低下が進み、公共交通利用者はさらに減少しています。地域公共交通の維持、改善は、まちづくり、観光、健康、福祉、教育環境等の様々な分野で大きな効果をもたらすものと期待されています。
- 町内においては、JR御殿場線、路線バス、小山町コミュニティバス、高速バス、富士登山バス、ハイキングバス等が運行されています。しかし、今後の人口減少により、バス路線の維持はさらに困難となることが予想されます。
- JR御殿場線は、通勤・通学・観光交流施設利用者等にとって依然として重要な公共交通機関です。しかし、少子化、人口減少等により駿河小山駅、足柄駅の利用者は減少し続けており、無人駅となっています。駅の利用促進に向け、まちづくり、観光、バス交通と一体となった取り組みを推進する必要があります。
- 住民意向調査において、生活交通に対する利便性の向上が重要な施策として求められています。地域公共交通の維持・改善を図るため、交通政策基本法及び地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、まちづくりと一体となった公共交通の活性化に主体的に取り組む必要があります。

3 目標（指標）

指標名	現状値(H27)	目標値(H31)	指標の説明
町が「快適な公共交通の整備に取り組んでいる」と回答する町民の割合	18%	50%	町民アンケート

4 施策の方向

(1) 駿河小山駅、足柄駅の利用促進と利便性向上

- ①JR御殿場線全駅のＩＣカード化の促進及びJRの所管エリアを跨いで広域的に利用できる環境の整備など御殿場線の利便性の向上について引き続き要望します。
- ②路線バス、コミュニティバス、タクシー等と連携し、駿河小山駅、足柄駅の利用を促進します。
- ③各種イベント、観光交流施設、企業との連携により、駿河小山駅、足柄駅の利用を促進します。

(2) まちづくりと一体となった公共交通の活性化

- ①地域公共交通活性化再生法に基づく協議会として「小山町地域公共交通会議」を引き続き設置し、金太郎公共交通計画の実施、見直しだけでなく、地域公共交通の活性化に向けた取り組みを進めます。
- ②都市計画マスタープラン等のまちづくりに関する計画と調和の取れた公共交通ネットワークの構築に取り組みます。
- ③単独維持困難な路線バスについては、生活確保維持路線として公的支援を実施するほか、利用の促進に努めます。
- ④小山町コミュニティバス（自主運行バス）は、路線バスの河口湖線・駿河小山線、JR御殿場線、高速バスと連携し、町内及び高齢化の著しい地域内の移動手段を確保します。
- ⑤路線バス事業者による高齢者バス定期券を引き続き小山町コミュニティバスにおいて利用可能とし、高齢者のバス利用の促進を図ります。
- ⑥通学における公共交通の利用を支援します
- ⑦地域における公共交通の取組を支援します。
- ⑧これからの企業誘致・定住促進や観光拠点整備の動向も踏まえながら、通学・通勤や観光に便利な公共交通網の形成に取り組みます。

(3) 公共交通結節点の環境整備

- ①駿河小山駅、足柄駅、東名足柄、生涯学習センター、須走地区のバス停等の乗継拠点においては、乗継機能・情報提供の充実及び案内の多言語化等バリア解消事業を推進します。
- ②新東名高速道路（仮称）小山PAを活用した高速バス乗継拠点の整備を検討します。
- ③小田急線新松田駅を利用した通勤通学等を支援するため、パークアンドライドのための駐車場を引き続き設置します。

5 主要事業

事業名称	概要
地域公共交通活性化事業	・金太郎公共交通計画に基づき、「自主運行バスの運行」「生活確保維持路線に対する補助の実施」「JR御殿場線の利用促進」等を実施し、持続可能な地域公共交通ネットワークサービスの推進を図る。

小山町まち・ひと・しごと創生総合戦略【概要版】
～富士山金太郎未来タウン構想の実現に向けて～



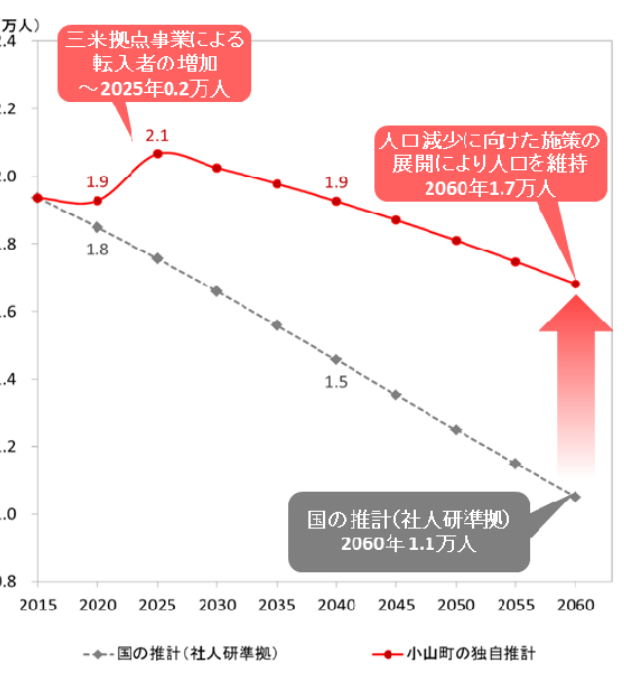
人口ビジョン

小山町の人口推移

- 人口減少・少子高齢化の進行
 - ・総人口は1960年の約29,000人をピークに減少
 - ・年少人口(0～14歳)及び生産年齢人口(15～64歳)は減少傾向にある一方、老年人口(65歳～)は増加傾向
 - ・2015年10月1日現在人口:19,371人
- 自然動態
 - ・2000年頃より出生数が死亡数を下回り、自然増減はマイナスに推移
 - ・2008～2012年の合計特殊出生率:1.50(2003～2007年:1.39)
- 社会動態
 - ・転出数が転入数を上回る転出超過が継続
 - ・特に20～40代前半の若年層で転出超過大

中長期的展望(2015年～2060年)

- 目指すべき将来の展望
- 2060年に約10,500人まで減少
 - ※ 国の推計:国立社会保障・人口問題研究所(社人研)準拠
- 合計特殊出生率の向上
 - 2020年に1.72※ 2030年に2.07を達成
 - ※ 町民の希望出生率
- 三来拠点事業による転入者増加
 - 約 2,100人増加(2025年までに)
- 社会減の抑制
 - 2014年:△218人⇒2020年:0人
- 2060年に人口17,000人程度(目標)



総合戦略(平成27年度～31年度の5年間)

取組方針 1. 三来拠点事業を中心とした未来を切り拓く取組の推進 2. 官民一体となった持続的な取組の推進

(現状値 → 平成31年度(平成27年度)の目標値)

基本目標及び数値目標	主な施策	重要業績評価指標(KPI)
基本目標1 産業拠点の整備を中心に多様な雇用機会を創出する	(1) 三来拠点事業等の推進による産業集積の形成 ① 三来拠点における産業集積の形成 (小口PA周辺地区、湯船原地区、足柄SA周辺地区) ② 三来拠点事業以外の企業誘致の推進	●三来拠点事業による企業立地件数(0件 → 8件) ●三来拠点事業による雇用創出数(0人 → 400人) ●三来拠点事業以外の企業立地件数(0件 → 2件) ●三来拠点事業以外の雇用創出数(0人 → 100人)
●新規企業立地件数 [26年度] 0件 → [31年度] 10件	(2) 観光産業の強化 ・小山町HPの観光サイト充実及び閲覧機能の強化 ・周辺自治体との広域連携の推進、メディアや旅行代理店を対象としたモニターツアーの実施 ・多彩で魅力あるサイクルイベントによる誘客促進	●観光サイトアクセス数(8,273件 → 10,000件) ●モニターツアーの参加者(社)数(0者 → 5者) ●サイクルイベント参加者数(4,163人 → 5,000人)
●雇用創出数 [26年度] 0人 → [31年度] 500人	(3) 農林業の成長産業化 ・餅米「峰の雪」の6次産業化、ブランド化 ・トマト、水掛け菜等地域特産品の6次産業化 ・木材の安定供給体制の確立、「富士山-金時材」の需要拡大	●餅米「峰の雪」を使った餅の売上額(1,700万円 → 2,500万円) ●6次産業化された商品の件数(3件 → 6件) ●静岡原木流通センターの原木取扱量(8,574m ³ → 37,600m ³)
●観光交流客数 [26年度] 415万人 → [31年度] 500万人	(4) 創業支援等による雇用創出 ・ビジネスセミナーの開催、空き店舗の提供等による創業支援 ・地域資源をビジネスに結びつける仕組みの構築による新産業の創出	●新規創業数(0件 → 2件)
基本目標2 居住環境の整備により定住・移住を促す	(1) 定住・移住促進 ① 小山町への居住を促すための情報提供 ・小山町の定住・移住総合案内サイトの開設、総合的支援プログラムの構築(イベント、セミナーの開催等)、良質な住宅・土地の不動産市場への流通促進 ② 小山町で暮らす気運の醸成 ・移住体験ツアー、就活生に対する情報発信・セミナー・インターンシップの実施、高校生に対するインターンシップの実施、定住促進事業助成金、優良な住宅団地の分譲	●定住・移住総合案内サイトのアクセス数(0件 → 50,000件) ●総合的支援プログラムの参加者数(0人 → 100人)※H27年度 ●不動産バンクの登録件数(累計)(20件 → 100件) ●移住体験ツアー対応件数(0件 → 24件) ●U/Iターン支援プログラムの参加者数(0人 → 20人)※H27年度 ●高校生のインターンシップ参加者数(0人 → 50人) ●定住促進事業助成金利用件数(59件 → 100件) ●町による宅地分譲数(わさび平地区を除く)(8区画 → 43区画)※H26年度からの累計
●社会増減(転入者数-転出者数) [26年度] △218人 → [31年度] 0人	(2) 出会いの場の創出 ・婚活支援事業「おやま出逢い大社」の実施(イベント開催・情報発信)、相談員による支援等	●カップル成立件数(0件 → 20件)
基本目標3 結婚・出産・子育て環境の整備により若者世代の希望に応える	(3) 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援 ① 相談体制の充実 ・家庭教育支援員の養成、家庭教育学級等による子育て講座・相談 ② 子どもを育む場の提供 ・子育て支援センター「ぺんぎんランド」の充実、放課後子ども教室の増設、民間事業者と連携した子育てサービスの構築 ③ 医療費無料化の継続 ・中学3年生までの医療費無料化	●家庭教育支援員による子育て講座及び教育相談の参加者数(0人 → 120人) ●ぺんぎんランド参加者数(2,945人 → 3,100人) ●放課後子ども教室箇所数(1箇所 → 3箇所) ●子育てサービス利用件数(0件 → 50件)
●合計特殊出生率 [20～24年度] 1.50 → [31年度] 1.72	(4) たくましい子どもの育成 ・地域との連携による、農林業の体験機会の提供 ・地域との連携による、通学合宿等の実施 ・中学生のボランティア活動の場の拡充(イベント、NPO等の活動等)	●農業・林業体験等参加者数(100人 → 200人) ●通学合宿等参加者数(120人 → 140人) ●全中学生数に占めるボランティア登録者の割合(32% → 50%)
●子育て支援に関する満足度 [26年度] 42% → [31年度] 50%	(1) スポーツを通じた健康づくりの促進 ・総合体育館等の体育施設を活用したスポーツへの興味・関心を喚起する機会の提供、町民体育大会等の多彩なスポーツイベントの開催	●体育施設利用者数(48,796人 → 60,000人)
基本目標4 様々な世代の町民が元気に安心して暮らせる環境を整備する	(2) 高齢者が自立していきいきと暮らせる環境の整備 ・高齢者の体力測定等のお達者度向上プロジェクト事業の推進、自主運動教室の実施等による高齢者の健康づくり ・福祉理美容師の養成、訪問理美容の実施、理美容室の地域コミュニティ拠点化、高齢者を対象としたオシャレ講座の開催	●お達者度 男性(16.56年 → 17.12年) 現状値:H24年度 女性(19.59年 → 20.64年) 同上 ●福祉理美容師養成人数(0人 → 20人)※H27年度 ●訪問理美容の実施件数(0件 → 150件) ●オシャレ講座参加者数(0人 → 200人)
●気軽にスポーツを楽しめる環境が整備されていると思う人の割合 [26年度] 37% → [31年度] 50%	(3) 安全・安心なまちづくりの推進 ・防災・安全講座の開催 ・地域防災訓練(富士山噴火訓練を含む)の実施、気象情報や避難情報等のメール配信システムの整備	●1名以上の防災士を配置する行政区数(18区 → 30区) ●地域防災訓練参加者数(6,900人 → 7,000人)
●高齢者が自立していきいきと暮らしていると思う人の割合 [26年度] 36% → [31年度] 50%		
●防災対策が進んでいると思う人の割合 [26年度] 51% → [31年度] 60%		

(4) 小山町都市計画マスタープラン(改訂計画) (2015～2035) 平成 27 年 3 月

(5) その他関連計画

■将来都市構造■

<目標>

各地域(小山・足柄・北郷・須走)で、市街化区域の整備・環境向上を図り、魅力的でコンパクトな市街地を形成するとともに、各地域の連携を強化していきます。

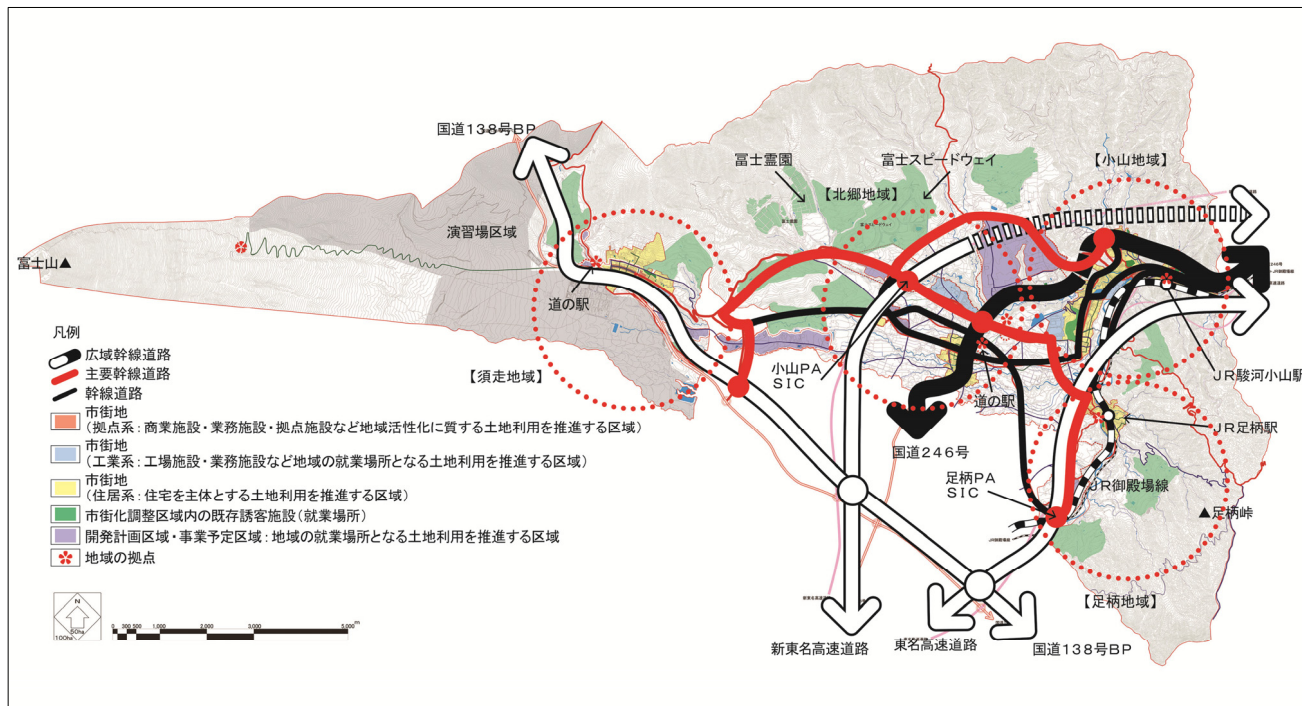
<都市構造>

新東名高速道路の開通と共に、北郷地域に(仮称)小山パーキングエリアとスマートインターチェンジ(以下、小山P A S I C)が設置され、本町と国土幹線道路との連絡が飛躍的に向上します。

首都圏・県央・関西圏との連絡が容易になり、富士箱根方面や町内ゴルフ場などのレクリエーション施設へのアクセスが向上します。

小山P A S I Cを中心に、町内の各地域(小山・足柄・北郷・須走)との連絡道路を主要幹線道路に位置づけ、町内交通の円滑化を図り、各地域ともに小学校区程度の市街化区域で、歩いて生活できるコンパクトで安全・安心な市街地を形成するとともに、各地域の連携を強化していきます。

既成市街地(市街化区域)は、未利用地の宅地化、空き家等の集約・再宅地化により住宅地としての環境を向上するとともに、各地域で「魅力の創出」を図ります。



<主要幹線道路の役割>

新東名小山PASICと
国道138号BPを結ぶ幹線道路

新東名小山PASICと
国道246号を結ぶ幹線道路

新東名小山PASICと
東名足柄SASICを結ぶ幹線道路

この3路線と国道246号などにより、
各地域間の連絡を向上する。

① 小山町高齢者保健福祉計画及び第6期介護保険事業計画(平成27～29年度) 平成27年3月

“ゆったり すこやか まごころあふれる郷づくり”

【公共交通に関する記載の抜粋】

■生きがい対策と支えあいの体制づくり■

高齢者がいきいきと自立した生活を確認できるよう、生きがい活動や交流活動に積極的に参加し、
すべての町民が共に支えあう、豊かな福祉のまちづくりを進めます。

- 高齢者等の利用が多い鉄道やバスなどの公共交通のバリアフリー化
- 低床バス等の導入、バス路線の確保

② 小山町観光振興計画(2015～2020) 平成27年3月

約430万人(平成25年度)⇒500万人(平成32年度)

“小山町へおいで！ 世界から” 観光交流500万人プログラム

【公共交通に関する記載の抜粋】

■観光インフラ整備プログラム■

- | | |
|--------------|-----------------|
| 観光交通基盤の整備・活用 | ●季節運行バスの利便性向上 |
| | ●小山PA/足柄SA周辺の整備 |
| | ●ユニバーサルデザイン化の推進 |

③ 「内陸のフロンティア」を拓く取組 平成28年2月

■基本目標■

1. 防災・減災機能の充実・強化
2. 地域資源を活用した新しい産業の創出・集積
3. 新しいライフスタイルの実現の場の創出
4. 暮らしを支える基盤の整備

■内陸フロンティア推進区域(小山町内の区域)■

富士のふもとに「三来拠点」

3つの未来がはじまるまち・おやま

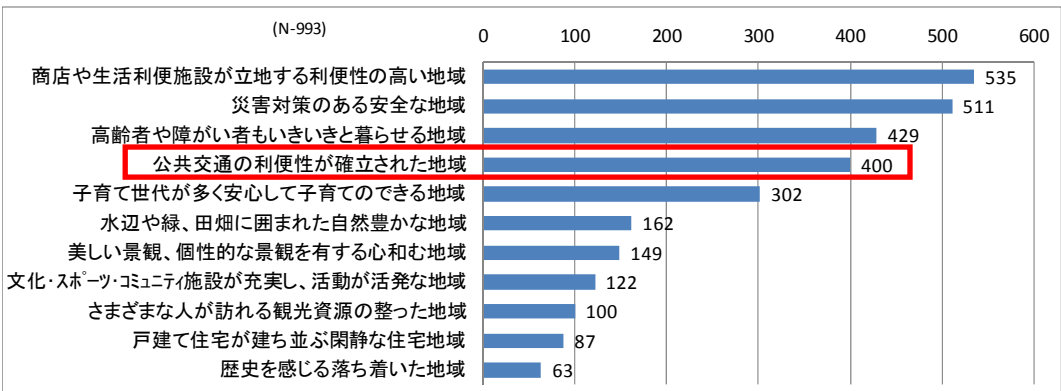
- (仮称)小山パーキングエリア・スマートインターを活用した地域産業集積事業推進区域
- 再生可能エネルギーを活用した産業拠点整備事業推進区域
- 東名高速道路足柄サービスエリア周辺を広域都市交流拠点とした土地利用事業推進区域
- 生活と自然が調和した「富士小山わさび平地区」推進区域
- 南藤曲地区「家・庭一体の住まいづくり」推進区域
- 富士山の眺望を活かした駿河小山駅周辺活性化事業推進区域

(6) 地域のまちづくり計画

① 成美地域金太郎計画 2020 平成26年3月【※成美地域金太郎計画 2020 推進協議会】



○アンケート結果（地域のために取り組むべき方向性）



② 明倫地域金太郎計画 2020 平成27年3月【※明倫地域金太郎計画推進協議会】

計画の方針

（方針1）行動する明倫地域づくり
2020年を目指して、地域住民が主体となり、地域を明るく元気にするため、行動を起こします。

（方針2）住民コミュニティが活発な明倫地域づくり
明倫地域に居住する住民同士が、普段から顔見知りとなり、楽しく交流し、いざというときはみんなで助け合うことができるコミュニティが活発な地域づくりに取り組みます。

（方針3）地域の資源を大切にし、元気なまちづくりに活かす
明倫地域には、谷戸山や用水路、歴史ある神社仏閣や道祖神等の歴史、明倫小学校を中心とした住宅地など優れた資源が多く存在します。
これらの資源を大切に保全するとともに、健康ウォーキングやハイキングなどを通じて、地域の元気づくりを活かします。

目指す地域の将来像と具体的活動計画の内容

みんなで検討した内容を基に、明倫地域が目指すべき将来像と、具体的な活動の取り組み内容は以下のようになります。

1 災害対策のある安全な地域

①安全安心な道が整ったまち

- ・災害発生時に緊急車両が入り、活動しやすい道路づくり
- ・安全安心な通学路の整備と地域の見守り活動体制づくり
- ・地域の基盤をつくる道路のネットワーク計画

②明倫小学校を拠点とした防災機能が充実したまち

- ・平常時における小学校との連携強化
- ・災害救援物資搭載車両ならびに、自衛隊などの救援車両が入れる道路の整備
- ・区民が安心して過ごせる備蓄（食料・飲料・日用品）の充実と適正な管理

③平常時の地域コミュニティが育む安心安全なまち

- ・イベント等による、地域住民の顔が見える交流活動
- ・災害時に、近所の災害時要援護者（お年寄り、障がい者など）を支援できる体制づくり

2 商店や生活利便施設が立地する利便性の高い地域

①何でもそろい、便利に生活できるまち

- ・住宅地、商業・業務地、公共用地に農地等、将来を見据えた土地利用計画づくり
- ・必要な商品が何でもそろい、町内でも有数の利便性が高いまちづくり（店舗誘致）
- ・子どもから高齢者まで、誰もが住みたくなるまちづくり

②地産地消を推進するまち

- ・地元農家が、公民館やスーパーなどの広場を活用した朝市の開催（土曜日など）
- ・子どもたちが、地域の特産品づくりに参加し、地域の農業を理解し、後世に伝えていく

3 水辺や緑、田畑に囲まれた自然豊かな地域

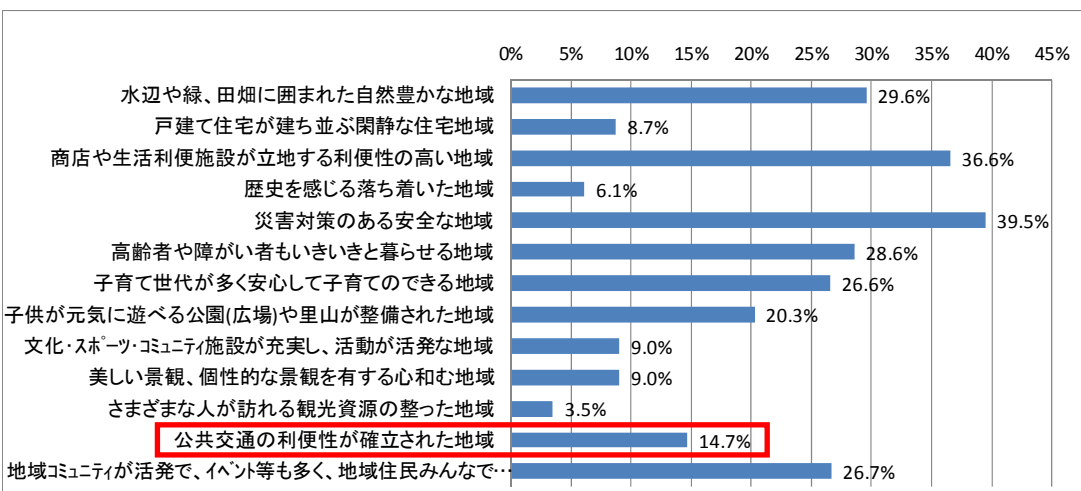
①歴史と自然環境が楽しめるウォーキングのできるまち

- ・せせらぎの音を聴きながら、歴史、自然を巡るウォーキングコースの指定
- ・住民の心と身体の健康をつくる一万歩ウォーキングコースの指定
- ・道祖神巡りコースの指定
- ・ウォーキング（歴史・自然）ガイドの育成
- ・目的に合わせたコースごとのマップづくり（含むイラストや解説）
- ・多様な看板づくり（コース、名所、解説、距離表示、スタート、中継点等の情報）
- ・四季折々の自然が楽しめる谷戸林（森林）公園づくり（展望広場、森で遊べる場所づくり、紅葉が楽しめる場所の整備ほか）

②水辺とホテルを活かしたまち

- ・清らかな湧水池と水音の響く水辺の保全と整備
- ・水量が多く流れが急な場所の安全対策
- ・見学できる湧水池の案内（個人宅でも許可が得られた所は見学ができるようにする）
- ・まちなかにホテルが舞い、多様な生物と共生できるまちづくり
- ・ホテルが毎年見られるように、カワニナやホテルの養殖を研究・実践する（保全活動）

○アンケート結果（地域のために取り組むべき方向性）

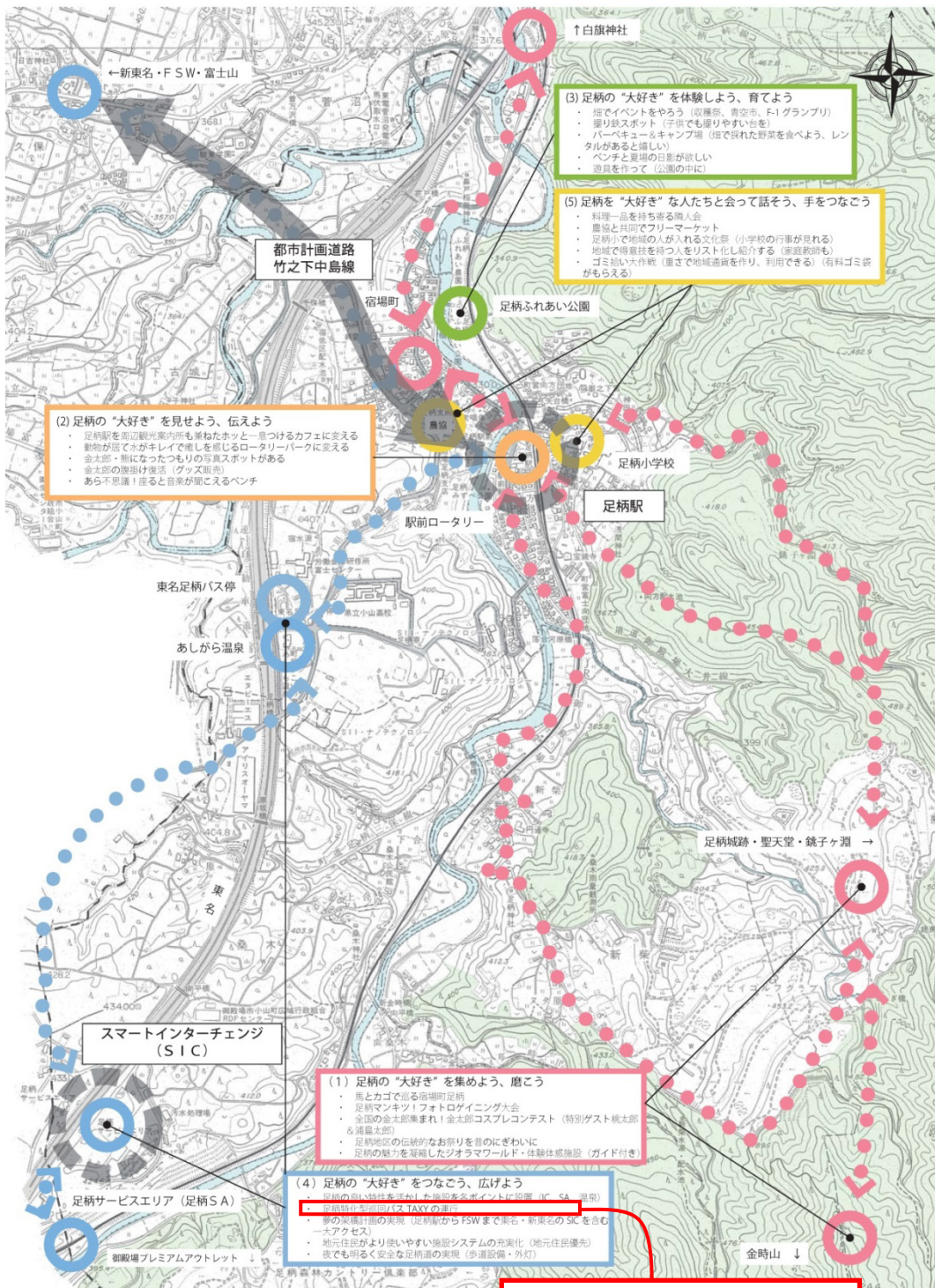


③ 足柄地域金太郎計画 2020 平成27年3月【※足柄地域金太郎計画推進協議会】

『足柄は、土地柄、人柄、今ここから！』

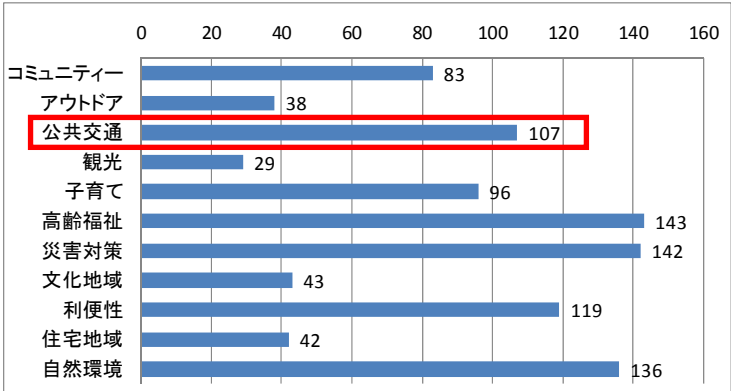
さあ、足柄の皆で集まって、
足柄の“大好き”を楽しもう、育てよう、分け合おう

- (1) 足柄の“大好き”を集めよう、磨こう
- (2) 足柄の“大好き”を見せよう、伝えよう
- (3) 足柄の“大好き”を体験しよう、育てよう
- (4) 足柄の“大好き”をつなごう、広げよう
- (5) 足柄の“大好き”な人たちと会って話そう、手をつなごう



足柄特化型巡回バス、TAXY の運行

○アンケート結果（地域の生活利便性（買い物や公共交通の利便性）を高めるための施策）



④ 北郷地域金太郎計画 2020 平成27年3月【※北郷地域金太郎計画推進協議会】

1 豊かな自然を次世代へ

富士山の眺望・豊かな水・穏やかな田園風景など、北郷地域の素晴らしい自然を守り、育み、活用し、自然の豊かさを大切に思う心を、次世代に引き継いでいきましょう。また、穏やかな風景を育んできた歴史や伝統を守り、情報として発信していきましょう。

具体的な活動案

①富士山の眺望を生かした地域景観づくり
②穏やかな田園風景などの保全
③歴史や伝統の継承
④“(仮称)北郷ふるさとマップ”の作成と活用

3 交流によるにぎわいづくり

北郷地域で、すでに行っている交流の機会を充実させるとともに、地域外の人々との交流の機会も創り、活気とにぎわいがあふれる地域にしていきたいと思います。

具体的な活動案

①従来からの“集い”の充実
②“集い”を住民主体で開催
③“特産品”の情報発信
④“集い”の魅力の情報発信

2 暮らしやすさを育む

子どもからお年寄りまで誰とでも気軽に声をかけ合える、安心・安全な地域づくりにみんなが取り組み、買物やバス交通などの利便性についてみんなで考え、暮らしやすさを育んでいきましょう。

具体的な活動案

①“北郷あいさつどおり”の周知
②“見まもり隊”の結成
③ゾーン30の指定（歩道、街灯の整備）
④公共交通等の利便性向上
⑤買物環境充実の検討

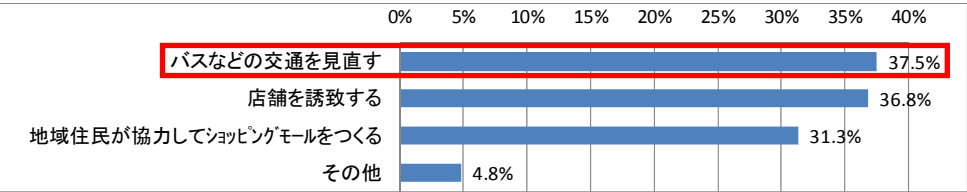
4 健康でいきいき・長生き

北郷地域で多世代が一緒に暮らす強みを生かし、家族全員がお互いを気づかい、健康への意識を高めましょう。健康を保つために、地域の集いや活動に積極的に参加しましょう。

具体的な活動案

①“集い”や活動への積極的な参加
②ウォーキングなど、体を動かす場づくり
③みんなで楽しく食べる場づくり

○アンケート結果（地域の生活利便性（買い物や公共交通の利便性）を高めるための施策）



⑤ 須走地域金太郎計画 2020 平成27年3月【※須走まちづくり推進協議会】

将来像

目 標

す・ば・ら・し・き

須走富士山にいだかれ、恵みを大切にしたい豊かなふれあいが、人を輝かせるまち

す

住むことが楽しい

“住みたい”
気持ちを抱けるまち

- ・須走暮らしの魅力体験、発信
- ・富士学校関係者の定住促進

“住み続けたい”
気持ちが育つまち

- ・魅力的な生活拠点の形成
- ・地域ぐるみで子育て支援
- ・健康・医療サービスの利便性向上
- ・幼保小中（学校）連携

暮らしの安全・安心を
高める

- ・顔の見える地域づくり
- ・富士学校や他の自治体等との協力による災害対応、救急医療の体制構築
- ・備蓄など災害への備え
- ・生活必需品全般をストックできるスーパー等の誘致

ば

場の力で
観光・交流

世界遺産のまち須走を
アピール

- ・須走口富士登山の再興
- ・国道138号IC周辺玄関口機能の充実
- ・本通りの散策機能強化
- ・道の駅、浅間神社、本通りの回遊性強化

須走の資源の
磨き上げ

- ・立山、豊富な水等自然や歴史資源の活用
- ・公園等の有効活用

新たな観光交流
資源の創出

- ・新たなイベントの創出
- ・市民活動や起業等チャレンジ活動への支援

ら

来訪しやすい
向上

広域圏での存在感
向上

- ・ぐるり富士山風景街道など広域連携事業への参画
- ・富士学校等での既存広域集客イベントの活用

広域交通網整備に
併せた集客・誘導

- ・道の駅すばしりの活用
- ・新東名高速道路御殿場IC、(仮)小山スマートIC、及びR138号からの誘導機能充実

情報発信力の
向上

- ・マスコミのフル活用
- ・ホームページ、SNSによる情報発信強化
- ・富士学校関係者への継続的な情報提供、口コミ活用

し

仕組みを
整える

域内経済循環の
構築

- ・イベントなどでの機会損失を減らす連携体制
- ・新規開業者の誘致
- ・地製、地消商品の開発

住機能と観光機能の
調和

- ・ゾーニングに基づく計画的土地利用
- ・生活拠点エリアの計画的な形成

緊急時対応体制の
充実

- ・災害初動時の適切な判断
- ・情報提供、避難誘導が可能な体制
- ・富士山噴火時の緊急避難体制の整備（ヘリ避難、シェルター整備等）
- ・ボランティアの受入体制整備

き

協働で
進める

まちづくり推進協議会
の効果的な運営

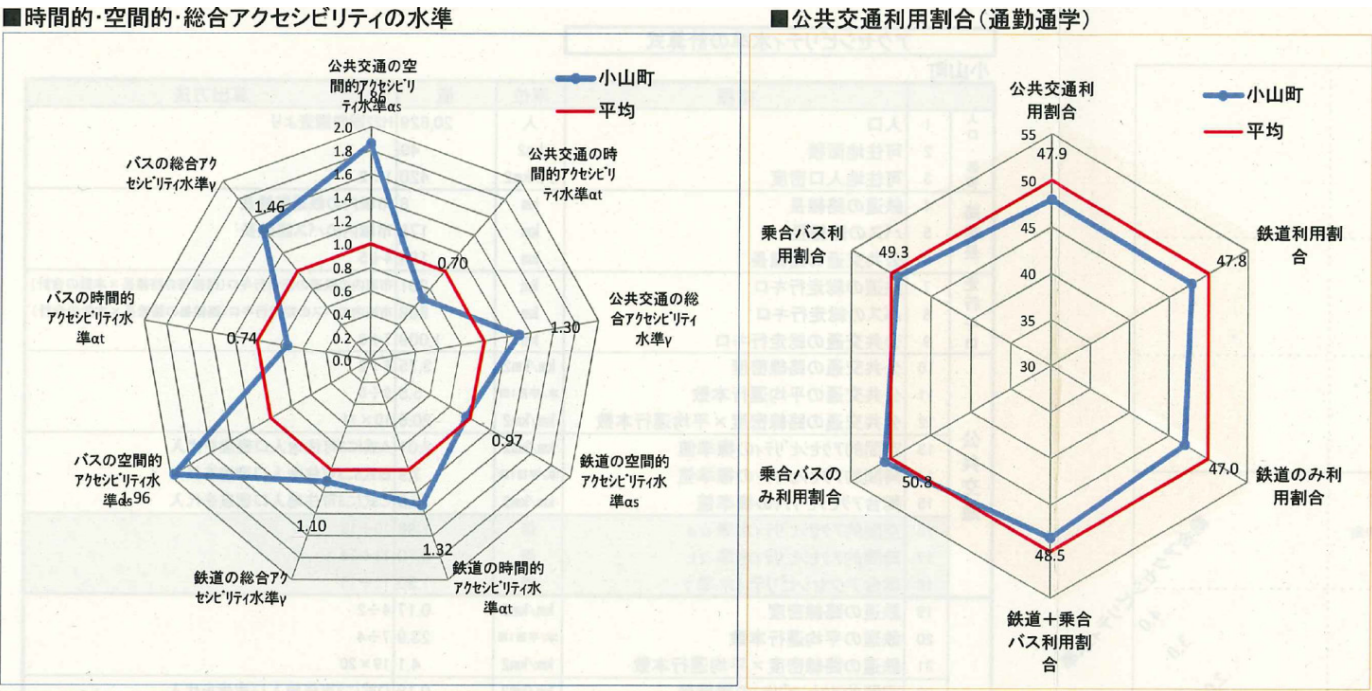
- ・須走地域内の地域活動団体間の連携体制構築、強化
- ・総合計画の進行管理
- ・まちづくり事業の優先順位づけ、戦略的展開に向けた企画、調整

地域内の合意形成力の
向上

- ・まちづくり情報の共有
- ・まちづくりリテラシーの育成
- ・住民のニーズ、ウォンツの把握

(7) アクセシビリティ指標

市町村ごとの公共交通（鉄道・バスの合成）のサービス水準について、定量的に比較するために国土交通省によって実施された「地域公共交通のサービスのアクセシビリティ指標（平成27年9月）」の結果から、本町は、バスの時間的アクセシビリティ水準が全国平均より劣っており、このため公共交通の時間的アクセシビリティ水準も低くなっている。また、通勤通学の公共交通利用割合は、全体的に全国平均をやや下回っている状況である。



項目	指標	小山町	全国平均	1～3万人平均
空間的アクセシビリティ指標	鉄道駅平均アクセス距離	1398m	1009m	1273m
	鉄道路線密度	0.17km/km2	0.19km/km2	0.16km/km2
	バス停平均アクセス距離	216m	195m	231m
	バス路線密度	3.57km/km2	2.93km/km2	1.98km/km2
時間的アクセシビリティ指標	鉄道平均運行間隔	45分	35分	59分
	鉄道平均運行本数	24本/日	31本/日	18本/日
	バス平均運行間隔	235分	121分	141分
	バス平均運行本数	5本/日	9本/日	8本/日
総合アクセシビリティ指標	鉄道路線密度×平均運行本数	4.1km/km2	10.1km/km2	6.1km/km2
	バス路線密度×平均運行本数	16.5km/km2	35.7km/km2	21.9km/km2

項目	指標	小山町	全国平均	1～3万人平均
公共交通利用割合（通勤通学）	公共交通利用割合	9.2%	26.2%	9.5%
	鉄道利用割合	7.6%	23.7%	8.3%
	乗合バス利用割合	2.6%	6.1%	2.1%
	鉄道のみ利用割合	4.7%	18.9%	6.1%
	乗合バスのみ利用割合	1.6%	2.4%	1.1%
	鉄道+乗合バス利用割合	1.0%	3.7%	1.0%
<平成22年国勢調査に基づく>	鉄道+乗合バス利用割合	1.8%	0.9%	1.1%
	鉄道+自家用車利用割合			

【指標の定義】
・平均アクセス距離＝1/2×√〔可住地面積／（π×駅・バス停数）〕
・路線密度＝鉄道・バス路線の路線長÷可住地面積
・平均運行間隔＝18時間（6～24時）÷運行本数（平日）
・路線密度×平均運行本数＝路線長×運行本数（平日）÷可住地面積
※鉄道路線はH23.7時点（国土数値情報）、鉄道運行本数はH25.1時点（駅すばあと）、バス路線、バス運行本数はH22.7時点（国土数値情報）に基づく。

5. 地域公共交通の課題

現状 【人口・外的環境】 ・町全体で人口減少と少子高齢化が進行している（特に、小山地区で人口減少と高齢化、ただし、須走地区は年少人口が高い） ・富士山、富士五湖、箱根への外国人が増加している ・社会減を抑制するため、定住促進施策を進めている ・新東名高速道路等の広域交通網の整備が進み、（仮称）小山 PA 等に新たな公共交通拠点が検討される ・世界遺産の富士山を守る環境配慮が必要である	
【地域公共交通】 ◆鉄道 ・JR 御殿場線の利用者は近年横ばい傾向にある ・本町内の駅の利用者が少なく、減少傾向にある ・IC 乗車券が利用できない ・JR 駿河小山駅、JR 足柄駅ともに無人駅となっている ◆バス等 （路線バス・コミュニティバス等） ・路線バスは御殿場駅方面が主体に運行されている ・路線バスは距離運賃で町内から御殿場駅まで約 600 円となっている ・路線バスは、主に広域幹線系統である河口湖線と駿河小山線の利用者となっており、河口湖線は観光客を中心に利用者が増加しているが、駿河小山線は減少傾向にある ・無料の町内巡回バスから毎日運行の有料のコミュニティバスとスクールバスに再編した ・小山地区と足柄地区では、無料調査運行を経て、スクールバスをさらに再編し、有料の小山地区・足柄地区実証実験運行バスによりフィーダー交通の評価を実施している （その他のバス等） ・スクールバスは、幼稚園のみとし、小中学生はコミュニティバス等の利用へ変更した ・高速バスが運行し、関東圏への利便性が高い ・登山バス、ハイキングバスが季節運行している ・町内にタクシー事業者が無いため、御殿場市内から配車が必要となっている （経費） ・バスに関連する経費は年々増加しており、平成 27 年度からスクールバス等を一元化しているためさらに増加している ・路線バスの上野線、コミュニティバスの収支率が低い （バス停勢圏） ・バス停間隔を調整し、密にサービスされるようになっている	
【町民ニーズ】 （利用状況） ・通院、買物目的での利用が多い （利用者負担） ・ある程度の利用者負担もやむを得ないと考えている人が多い （存在価値） ・自動車を利用できない人の重要な交通手段、将来運転できなくなった時の交通手段が多い （利用環境） ・運行本数、時間帯への不満が多い	【利用実態】 ・路線バスの利用者は 4 割が高齢者である ・コミュニティバス及び小山地区・足柄地区実証実験運行バスは殆どの利用者が通学利用である ・路線バスは御殿場市内への往復の時間帯、コミュニティバス等は朝夕の通学利用が多い ・御殿場市内への利用が中心となっている ・小山役場前、JR 足柄駅、一色、小山高校バス停の利用が多い ・高校生を中心に、足柄地区のバス利用が多く、足柄地区内の移動も多くなっている

◆小山地区 ・比較的駅やバス停までの距離が遠い ・通勤目的の利用も多い ・道の駅、あしがら温泉への利用も多い ・足柄地区とを結ぶ小山地区・足柄地区実証実験運行バスを実施中である	◆足柄地区 ・集落が点在しており、途中に無人の区間がある ・駅やバス停までの距離が近い ・通勤目的、役場、学校への利用も多い ・スクールバスなど目的を限定したうえで一部は存続して欲しいと考えている人が多い ・小山地区とを結ぶ小山地区・足柄地区実証実験運行バスを実施中である
◆北郷地区 ・全体的に利用が少ない ・飲食目的、役場への利用が多い ・通勤・通学のため必要な交通手段であると感じている人が比較的多い ・（仮称）小山 PA 等のまちづくりインパクトが期待される	◆須走地区 ・比較的駅、バス停までの距離が遠い ・朝の利用が多く、他地区と比べて夜の利用も多い ・観光利用が増えてきている ・通勤・通学のため必要な交通手段であると感じている人が比較的多い

将来都市像 【第 4 次 小山町総合計画】 “富士をのぞむ 活気あふれる 交流のまち おやま” ■移動しやすい公共交通の充実■ ・通勤・通学、買物や通院など、だれもが利用しやすい公共交通を充実することを目的とします。 【後期計画】 ■公共交通の活性化■ ・まちづくり等の地域戦略の一環として、持続可能な地域公共交通ネットワークサービスを形成することを目的とします。 【まち・ひと・しごと創生総合戦略】 ■三来拠点事業を中心とした未来を切り拓く取組の推進 ■官民一体となった持続的な取組の推進 【小山町都市計画マスタープラン】 ■各地域（小山・足柄・北郷・須走）で、市街化区域の整備・環境向上を図り、魅力的でコンパクトな市街地を形成するとともに、各地域の連携を強化していきます。 【地域金太郎計画】 ■笑顔があふれ成長する美しいまち 成美 ■行動する明倫地域づくり、住民コミュニティが活発な明倫地域づくり、地域の資源を大切にし、元気なまちづくりに活かします ■足柄は、土地柄、人柄、今ここから！ ■いちばん暮らしやすい ふるさと 北郷 ■す・ば・ら・し・き 須走 【各種まちづくり】 ■足柄 SA、（仮称）小山 PA のスマートインター周辺整備 ■観光資源に隣接又は近接する区域におけるホテル等の立地

【地区別懇談会】 （平成 25 年度調査：金太郎公共交通計画） ・利便性の向上が求められている ・住民視点による小山町の特徴を活かした議論が今後も継続できる体制が期待できる ・公共交通が住民の重要な課題として認識されている ・利用者確保として「車両、デザイン」の改善が、持続性として「有料化」が求められている ・バス運行の PR やわかりやすさが求められている ・普段の行動の中で訪れたい場所は、町内の横断的な移動と JR 御殿場駅周辺をはじめとした御殿場市が多い。さらに、関東や中部圏までの広範な移動もされている ・バス停整備の主体としては、基本的には行政や事業者が主体となり、地区や個人が協力して参加する意向が強い。その中で、バス停の「名称の検討」「緑化、清掃活動」「設置場所の提供」については、地区や個人が主体となることも考えられている。 （平成 27 年度調査） ・公共交通にあわせた会議時間を設定している ・公共交通の役割はクルマを自ら利用できない人のため ・未来の子供たちへと引き継げる持続可能な交通システムの構築が求められている ・計画的な展開を評価 ・見やすい、わかりやすい時刻表の作成 ・地域ごとのルートや時刻 ・バスマップに付加価値を持たせる

問題点・課題 ■さらなる高齢化や人口減少を見据えた、公共交通による生活交通サービスの維持・確保 ●公共交通の必要性に関する共通認識化 ●運転免許返納者、高齢者の対応 ●車両のバリアフリー、環境対応化 ●運行収支の改善（利用者増、副次収入など） ●通学対応の全町的な対策 ■それぞれの地区の実情や需要に応じた、適切な交通体系への再編 ●公共交通不便地区の解消（高齢化が著しい地区） ●乗り継ぎ環境の改善、コミュニティバスと鉄道・路線バスとの連携 ●季節運行バスとの連携や外国人も含めた観光客による地域活性 ●町内へのタクシー事業者の誘致 ■利便性の高い公共交通への改善と、わかりやすい情報提供等による利用促進 ●需要に適したわかりやすい運行ルート、バス停位置、ダイヤへの継続的な見直し ●わかりやすい情報提供、 ●外国人を含む観光客への PR ●環境にやさしい交通体系 ■地域との協働による取り組みの促進 ●親しみやすさへの取り組み ●バスの有効活用 ●地域協働の取り組み促進 ●イベント開催やバス体験、利用意識の醸成 ●まちのシステムとして地区のまちづくり

6. 改訂版 金太郎公共交通計画

計画の背景と位置づけ

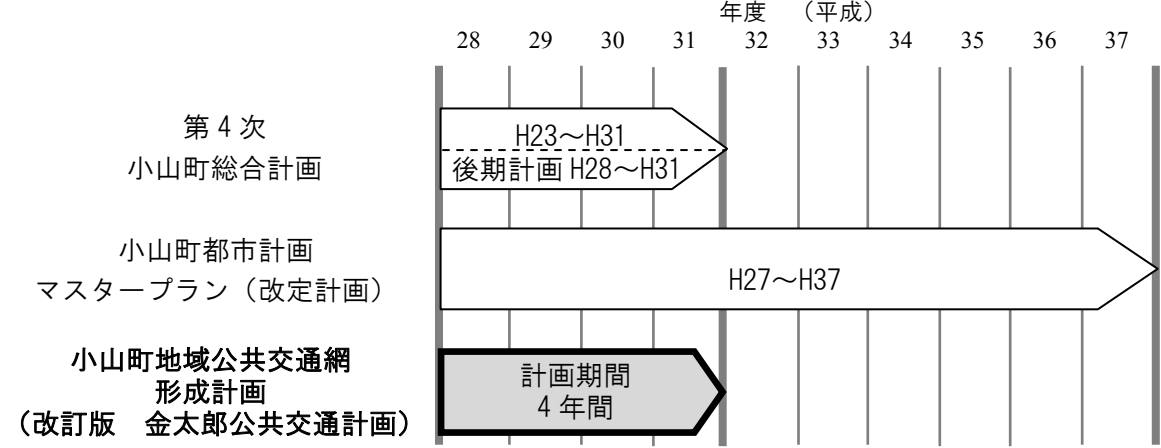
計画期間	計画の策定経緯	関連
平成 26 年度	金太郎公共交通計画（地域公共交通連携計画）	法改正 都市計画マスタープラン
平成 27 年度	評価 改定	地方版総合戦略 総合計画(後期計画)
平成 28 年度	改訂版 金太郎公共交通計画（地域公共交通網形成計画）	
平成 29 年度		
平成 30 年度		
平成 31 年度	目標 策定/改定	総合計画目標年次
平成 32 年度		
平成 33 年度		
平成 34 年度		
平成 35 年度	目標	

基本理念

持続可能な地域公共交通により 快適に移動ができる まちづくり
～わかりやすい、利用しやすい、みんなで支える～

計画の期間

小山町地域公共交通網形成計画の目標年度は総合計画後期計画の目標年度に合わせて平成 31 年度とし、計画期間は平成 28 年度からの 4 年間とする。ただし、将来のまちづくりと整合するため、平成 37 年度目標の都市計画マスタープラン等のまちづくりを考慮する。なお、本計画は、各上位計画の見直しや社会情勢の変化等に合わせて、適宜必要な見直しを行うものとする。



計画の区域

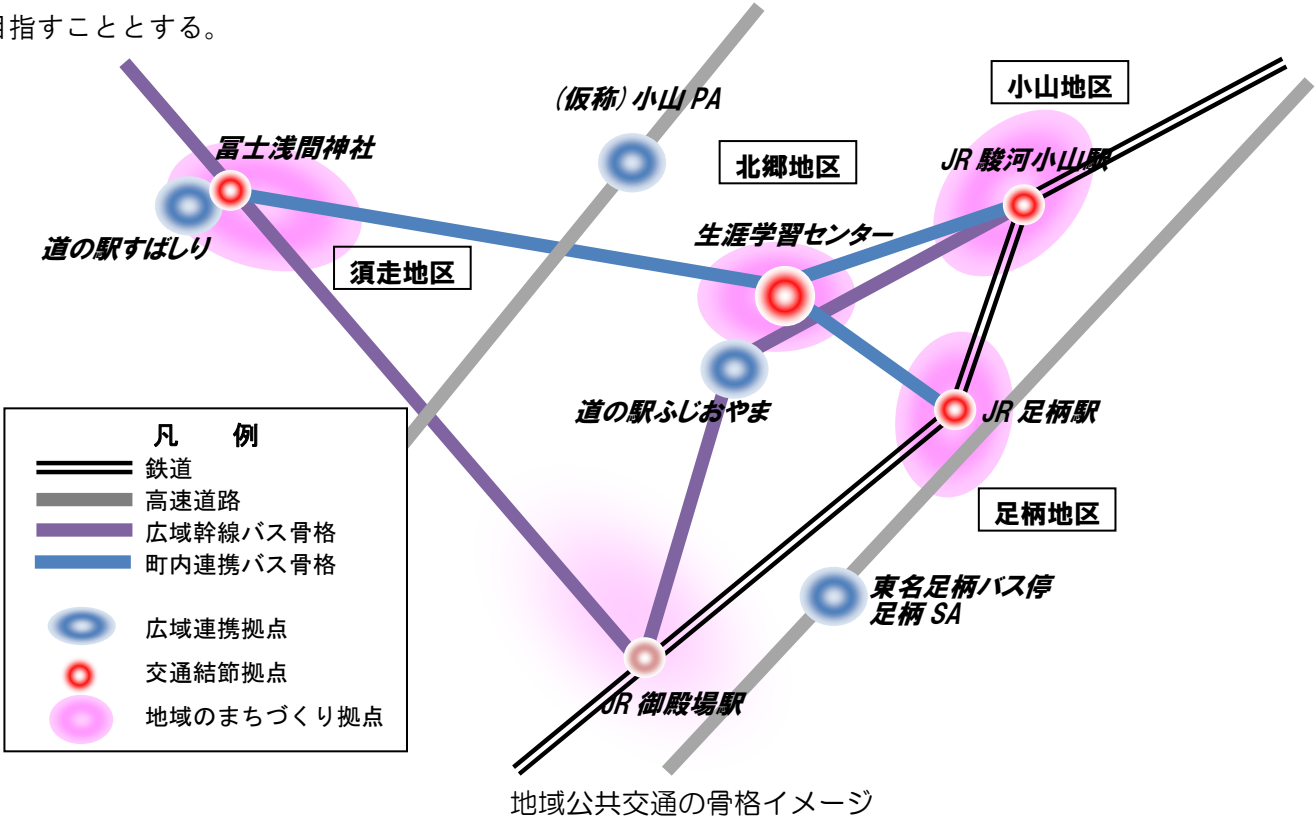
小山町地域公共交通網形成計画は、住民の通勤、通学、買い物、通院といった日常生活における移動特性を踏まえて「小山町全域」を対象区域とする。ただし、観光客なども視野に高速バス体系等も考慮する。

地域公共交通の連携のイメージ

本町は東西に長く、小山（成美・明倫）・足柄・北郷・須走の 4 つの地区が東西に並んでいる。東西方向の公共交通軸は、一部路線バスがあるものの、主にコミュニティバスによって構成されており、町内移動を担っている。南北方向は、御殿場市や河口湖に向けて路線バスや鉄道が運行されており、広域幹線系統としても機能している。

そこで、今後の地域公共交通の連携に向けて、南北方向については市町村間交流の軸として JR 御殿場線と路線バスによって担い、東西方向については町内交流軸としてコミュニティバスの運行によって町内の移動を活性化させ、地域間の交流を促進する。また、広域圏への移動は、JR 御殿場線を強化するとともに、地域公共交通の枠組みからは外れるが、高速バス体系とも連携することで関東・中部圏域とのアクセス性の高さを活かす。さらに、限られた人口構成の中でコミュニティバスを継続的に維持していくためにも、観光客利用を積極的に取り入れ、運賃収入の基盤の一部を担ってもらう。

なお、それぞれの機関の担う役割に応じて連携を図りながら、地域公共交通の実現に向けて、取り組みを進めていくが、利用者の状況を見ながら運行ルートや運行システムの見直しを随時行い、より良い交通体系へと成長を目指すこととする。



- 町・県（行政） 情報発信や地区別懇談会などによる町民との対話を行いながら、町民の公共交通に対する意識を高め、利用促進や公共交通の確保・維持・改善に努める。
- 町民・地域 地区別懇談会への参加や公共交通の利用などを通じて、公共交通を自分たちで創り、守り、育てていく。
- 交通事業者 利用者の安全を第一に考えた運行を行うとともに、さらなる利便性向上や収支改善に向けた努力や提案を行う。
- 商業施設・企業等 施設の利用促進・集客力向上とあわせて、地域の魅力向上に努め、公共交通によるまちづくりを担う一員として参画する。
- 地域公共交通会議 本計画を策定するとともに、地域の実情に応じた地域公共交通に関する評価や運行に必要となる事項等を協議し、地域住民の交通利便の確保・向上に努める。

基本方針

■『快適に使いやすい移動手段の確保』

世界に誇れる世界遺産富士山のふもとの眺望・景観・環境を未来にわたって維持・継承し、少子高齢化や人口減少が進展する社会情勢にあっても、町民の誰もが安心して未来に向けて住み続けるための通学・通院・買い物等の町民生活に不可欠な活動を支える基幹的な公共交通に対して、快適に使いやすい移動手段の確保と持続可能な運行の実現を目指す。

そのため、鉄道や路線バスを中心として公共交通の利便性を高め、乗り継ぎが簡単な運行や、わかりやすい適切な情報を提供する。また、環境や高齢者にも配慮した車両の導入、バス停や乗り継ぎ拠点の整備によりバス待ち環境を整え、快適に利用しやすい交通環境を創出し、適切な交通システムによって持続可能な公共交通を確保する。

■『地域で創り、支える、新たな公共交通の仕組みづくり』

将来にわたって、自分たちの手で生活交通手段を守り、地域で支えるまちづくりのために、住民と行政、事業者などが公共交通の必要性の共通認識を持つとともに、それぞれの役割分担を明確にし、地域の魅力や特色を活かした地域振興や観光振興への取り組みとも連携した地域公共交通を目指す。

そのため、地区別懇談会などを定期的を開催して親しみやすさやバスの有効活用を考え、活動を行うとともに、地域公共交通の評価にも参加してより良い公共交通の構築へ向けて、クルマを利用できない人にも外出機会の確保を図るとともに、町の公共交通として地域と協働で地域公共交通を守り、育てる意識を醸成する。さらに、外国人も含めた観光客の利用にも配慮し、わかりやすい案内や情報発信に取り組むとともに、地域公共交通による環境にやさしい取り組みの展開を図る。

■『まちづくりと連携し、地区特性や利用状況に応じた公共交通の展開』

それぞれの地区が個性的なまちづくりを進め、地域間の移動ニーズを踏まえた公共交通を展開し、相互の連携を図ることで町域の一体性を確保して町全体の活気ある活動を促進するとともに、各公共交通サービスの特性を活かした効率的で持続可能な公共交通体系により公共交通不便地域の解消を目指す。

そのため、生活交通サービスの運行経費負担を適正化して持続性のある、運行システムの創出を図る。さらに、各地域の生活行動や交通需要特性を踏まえ、路線バスとの調整を図りつつ、公共交通サービスが利用できない地域を解消し、安心して生活できる居住環境と魅力的なまちづくりに向けた公共交通環境を整備する。バスに乗るまで、バスを降りてからも目的地まで街中を安心して歩ける環境づくりにも取り組む。

計画の推進体制

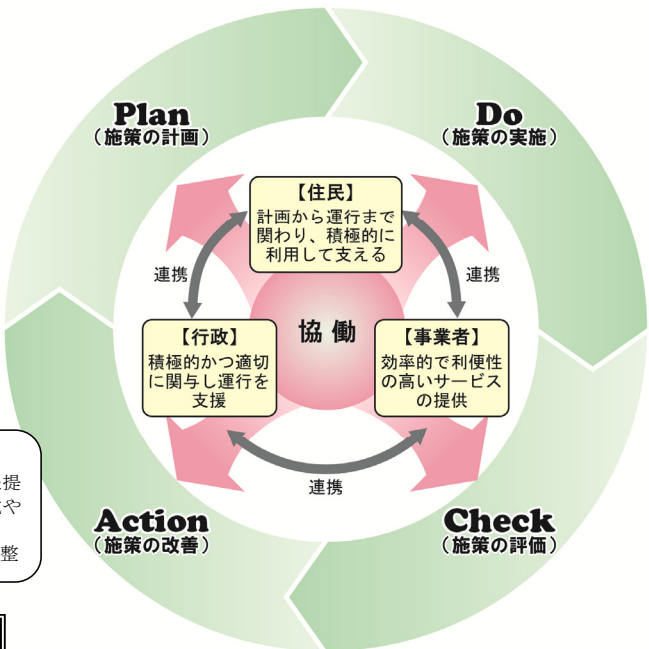
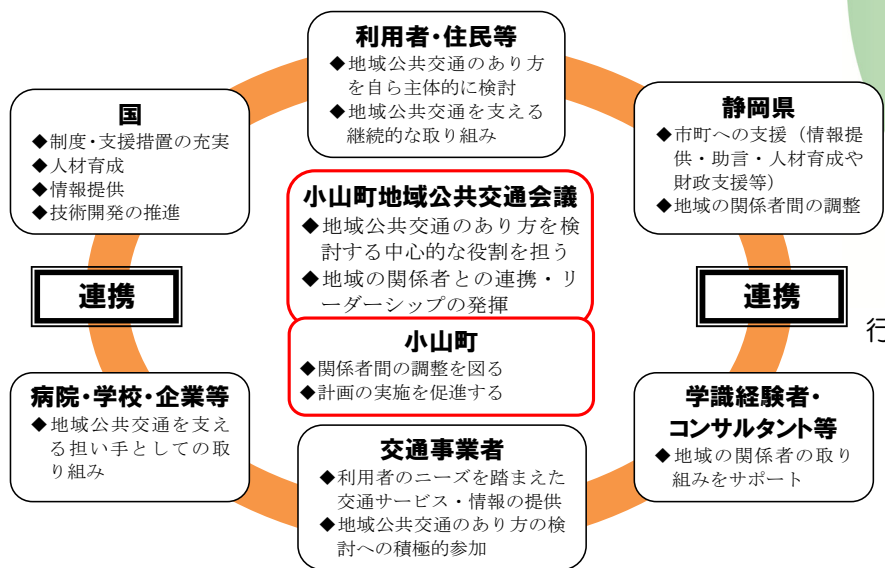
基本理念・基本方針の実現に向けて、町・県（行政）、町民・地域、交通事業者等の役割を明確にし、計画と協働による取り組みを行う。本計画の実施にあたっては、行政のみならず、町民や交通事業者などの関係機関が連携・協働し、一体となって総合的に取り組んでいく必要がある。そのため、小山町地域公共交通会議において、計画に掲げた事業の着実な実現、評価や見直しなどを行い、計画を推進していく。

計画の目標値

基本方針	指標名	基準値	達成目標 (平成31年度)	指標の説明	検証内容
『快適に使いやすい移動手段の確保』	①町内鉄道駅利用者数	975人/日 (平成25年)	1,000人/日	JR駿河小山駅とJR足柄駅の日利用者数	有効性
	②路線バスの利用者数	106,248人 (平成26年度※1)	106,250人	路線バスの年間利用者数	
	③路線バスの収支率	57.9% (平成26年度※1)	60.0%	主要な路線バス(駿河小山線)の収支率	経済性
『地域で創り、支える、新たな公共交通の仕組みづくり』	④バスと鉄道との接続便数	74便 (平成27年)	78便	町内のバスと鉄道駅(JR駿河小山駅、JR足柄駅)との接続本数	有効性
	⑤町の運行するバスの利用者数	16,112人 (平成26年度)	24,900人	コミュニティバス及び小山地区・足柄地区実証実験運行バス等の町が運行するバスの年間利用者数	
	⑥町の運行するバスの収支率	6.0% (平成26年度※1)	15.0%	副次収入も含めたコミュニティバスの収支率	経済性
『まちづくりと連携し、地区特性や利用状況に応じた公共交通の展開』	⑦公共交通に対する満足度	18.0% (平成27年)	50.0%	総合計画の町民アンケート「快適な公共交通の整備に取り組んでいる」と回答する割合	有効性
	⑧バスの総合アクセシビリティ指標	22.7km/km ² (平成27年)	28.8km/km ²	バス路線の総合アクセシビリティ水準(路線密度×平均運行本数)	
	⑨バス運行に係る経費	4,000万円 (平成27年度見込み※2)	4,000万円以下	バスの運行に係る経費から運賃等の収入を差し引いた額	経済性

※1:平成26年10月1日～平成27年9月30日、2:平成27年4月1日～平成28年3月30日

本計画では、社会経済情勢の変化やそれに伴う市民の価値観の変化、上位・関連計画との整合、行財政状況の変化、まちづくり事業の展開状況などに柔軟に対応しながら、計画の見直し、あるいは新たな施策の提案など、効率的かつ効果的に事業を推進していくことが求められる。そこで、概ね1～2年ごとに各事業の進捗管理を行い、4年後を目途に評価及び次期計画の策定を行うPDCAサイクルを構築して進めていく。



行政・事業者・住民の協働による各事業の進捗確認と検証・評価のPDCAサイクル

地域公共交通網形成計画の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

事業	活動	主な内容	実施・推進主体	短期 平成 28～31 年度				中期 平成 32～ 35 年度	長期 平成 36 年度～	進捗管理・モニタリング 指標(案) (○数字は計画の目標値 としても評価する)
				28	29	30	31			
(1) バス路線網 の見直し・改善	コミュニティバス 等の継続的な改善	◇コミュニティバス等の町が運行するバスの最適化の検討 (収支改善・最適化)	◎小山町 ○バス事業者 ○地域住民	継続的な改善・見直し						②路線バスの利用者数 ⑤町の運行するバスの 利用者数
	路線バスの見直し・ 改善	◇コミュニティバスと連携した運行ルートへの見直しの検討 ◇バス利用環境の変化による利用者需要へ対応した路線バスの見直し	◎バス事業者 ○小山町 ○地域住民	継続的な改善・見直し						
	新たな公共交通の 検討	◇タクシー事業者の誘致を行い、町内にタクシーが常駐する環境を整え、バス交通を補完 ◇路線バス及びコミュニティバスの利用が難しく、高齢化が著しい地区を運行する新たな運行形態 を検討	◎小山町 ◎バス・タクシー事業者 ○地域住民					検討・運行		
(2) わかりやす い運行情報の提 供	バスマップ、 案内表示等の制作	●町内を運行する全バス路線の路線図と観光名所、主要施設などをわかりやすく図示したバス統合 マップと統合時刻表の作成 ●主要バス停における周辺案内マップ作成 ●JR 駿河小山駅・JR 足柄駅に掲示するマップ又はデジタルサイネージ作成設置 ●JR 御殿場駅に小山町内への公共交通案内掲示	◎小山町 ◎鉄道・バス事業者 ○企業等	準備						・ホームページアク セス数 ・ホームページアク セス国数
	乗り継ぎ情報提供 の高度化	●外国観光客対応を含めたホームページなどの情報発信 ●利用者に経路情報を伝えるツールとして、地域公共交通ネットワークの見える化を推進 ◇町内企業における自社へのバスアクセスの案内提供 ◇継続的に利用されるように、最新情報を提供し、更新を図る	◎小山町 ◎鉄道・バス事業者 ○企業等	作成						
(3) 適切なバス 車両等の導入	バス車両等の導入	◇バス走行環境、バス利用者及び既存バス車両の耐用年数などを考慮して、路線毎に適正なバス車 両を検討 ◇将来的には、環境面・防災面に配慮した車両の導入も検討し、小山町の都市機能の向上を目指す	◎小山町 ◎バス・タクシー事業者	随時導入						・バス車両(低公害車・ バリアフリー車両等) の導入台数
(4) バス停や乗 り継ぎ拠点の整 備推進	乗り継ぎ拠点の空 間整備	◇周辺に日常的に人が集い、賑わい、憩う空間や施設の配置検討 ◇地域の交通や生活の情報が充実している機能の導入検討 ◇乗り継ぎの動線を含めた基本的な配置の見直し検討 ◇移動距離が短く、わかりやすく、バリアフリー化などによるスムーズな乗換環境の検討 ◇バスの発着・待機、送迎車とバスとのキス・アンド・バスライドやパーク・アンド・バスライド の対応	◎小山町 ◎鉄道・バス・タクシー事業者	準備						・乗り継ぎ施設の新規 整備箇所数
	JR 足柄駅の整備	◇足柄駅交流センターの整備 ◇タクシー利用環境の整備	◎小山町 ◎鉄道事業者	準備						
	待合・乗換環境の 整備	◇支線系統の乗り継ぎによる待合規模の検討(充実・強化) ◇乗り継ぎ時刻などのわかりやすいバス情報案内施設検討 ◇バス待合室にバス到着情報などの設置を検討	◎小山町 ◎バス事業者 ○地域住民 ○企業等	準備						
	公共交通事業者の 誘致	◇新東名小山 PA への高速バス誘致 ◇新東名小山 PA への高速バスのアクセス方法検討 ◇JR 御殿場線の町内駅等へのタクシー事業者の誘致	◎小山町 ◎バス・タクシー事業者	誘致						
(5) 持続可能な 運行へ向けた料 金負担	わかりやすい運賃 の体系化	◇路線バス、コミュニティバス等の運賃制度の検討 ◇料金負担軽減策の検討 ・乗り継ぎ券、1日券、定期券の検討	◎小山町 ◎バス事業者	準備						③路線バスの収支率 ⑥町の運行するバスの 収支率
	副次的収入源の獲 得	◇バスの副次的収入策の検討 ・路線・時刻表案内、乗り継ぎ制度(検討)などの情報提供にあわせ、広告・協賛金の募集などを実施 ・広告掲載(時刻表、車内広告、車外広告、バス停、バスマップ、回数券ウラ面など)、車内物販の検討 ・バス停名称へのネーミングライツの検討	◎小山町 ◎企業等 ◎鉄道・バス・タクシー事業者 ○地域住民	乗り継ぎ券等 見直し				継続的な副次収入の確保		⑨バス運行に係る経費 ・副次収入割合

●計画推進事業等の支援を活用しながら推進する事業 ◇その他の事業により推進する事業
◎中心となって実施・推進する組織 新規事業 準備
○中心となる組織と協力して取り組む組織 継続事業(既に実施しており、今後も継続的に実施する事業)

事業	活動	主な内容	実施・推進主体	短期 平成 28～31 年度				中期 平成 32～ 35 年度	長期 平成 36 年度～	進捗管理・モニタリング 指標(案) (○数字は計画の目標値 としても評価する)
				28	29	30	31			
(6) 地域住民との協働による取り組み	地区別懇談会の開催	●地域との協働による地域公共交通を展開する地区別懇談会を継続的に開催 ●各地区の公共交通を地域で検討	◎小山町 ◎地域住民 ○鉄道・バス・タクシー事業者 ○企業等	継続的な開催						⑦公共交通に対する満足度 ・地区別懇談会の満足度 ・地区別懇談会への参加者数（累計） ・バスサポーター等への登録数
	住民参加による愛称等の公募	●住民参加による公募 ・バスやルート、車両の愛称、バス停の名称 ・車両やバス停、切符などのデザイン	◎小山町 ◎地域住民 ◎企業等 ○鉄道・バス・タクシー事業者	準備	公募①	公募②				
	バスサポーター等の展開	●バスサポーター制度等の導入 ・バスサポーター制度等の地域で支える仕組みの検討 ・地域で支えるバスへの取り組みの展開	◎小山町 ◎地域住民 ◎企業等 ○鉄道・バス・タクシー事業者	準備	施策の展開					
(7) 利用促進策、バス活用策の展開	利用促進策の取り組み	●利用促進策の実施 ・試乗会や無料お試し乗車券の配布 ・乗り継ぎ結節点や町内施設での啓発・広報活動（バス乗車映像の放映など） ・モビリティ・マネジメントの展開の検討	◎小山町 ○バス事業者 ○地域住民 ○企業等	準備	試行	取り組みの実践				・利用促進活動の開催回数 ・有効活用策の取り組み数（累計） ・シルバー定期券の助成利用者数
	バス活用策の推進	●バスの有効活用策の実施検討 ・コミュニティバスによる物品輸送策（商店・商店街からの宅配サービス、図書館との連携による図書貸し出し・返却サービスなど）の検討 ・自転車の積車やサイクル・アンド・バスライドの検討	◎小山町 ◎バス事業者 ○地域住民 ○企業等	準備	試行	取り組みの実践				
(8) 観光事業等イベントとの連携強化	イベントとの連携	◇バス運行に合わせたイベント・会議等の開催の奨励 ●バスイベントの開催検討 ・バス停の待合い環境改善 ・乗車体験、バス懇談会など ◇イベントバスの運行の検討	◎小山町 ◎鉄道・バス・タクシー事業者 ○地域住民 ○企業等	準備	試行	取り組みの実践				・バス関連イベント開催回数 ・ハイキングバス、利用者数 ・富士登山バスの運行数・利用者数
	観光事業との連携	◇観光振興計画と連携した活動の実施 ◇ハイキングバスや富士登山バスなどとの連携強化 ◇観光用のバスマップ作成などの観光者の利用促進策の実施	◎小山町 ◎鉄道・バス・タクシー事業者 ○地域住民 ○企業等	観光との連携検討・取り組みの実践						
(9) 路線バス・鉄道との連携強化	バス・鉄道の連絡強化	◇コミュニティバス・路線バス・鉄道の乗り継ぎを考慮したダイヤ編成の検討 ◇乗り継ぎによる割引運賃の導入検討 ◇鉄道等への IC 乗車券の導入促進	◎鉄道・バス事業者 ○小山町・静岡県 ○企業等	準備	改善・見直し					①町内鉄道駅利用者数 ④バスと鉄道との接続便数
	鉄道利用の活性化促進	◇利用促進の相互 PR 活動の実施 ◇JR 御殿場線の活性化・利用促進への広域的な取り組みの検討	◎鉄道事業者 ○小山町・静岡県 ○企業等	準備・調整			取り組みの実践			
(10) 通園・通学バスの対応	通学者への継続的な対応	◇中学・高校生の居住地に応じた継続的な通学対応	◎小山町・静岡県 ○バス事業者 ○地域住民	改善・見直し						⑨バス運行に係る経費 ・通学定期利用者数
(11) まちづくりの取り組みとの連携強化	まちづくり施策との連携	◇交通機能の充実にあわせて、活動拠点機能強化を促進 ◇交通結節点の機能の拡充とあわせた地域の活性化策の検討 ◇環境保全として、富士山への自動車乗り入れ規制等と合わせた公共交通によるアクセスの確立等の検討 ◇防災・減災対策として、生涯学習センターの防災拠点化と連携して災害時のバス活用について検討	◎小山町・静岡県 ○鉄道・バス・タクシー事業者 ○地域住民 ○企業等	まちづくりとの連携検討・取り組みの実践						⑧バスの総合アクセシビリティ指標
	シティプロモーションの展開	◇フィルムコミッション等により本町を対外的に宣伝する ◇本町のブランド化によって地域住民の愛着度を形成する ◇本町のイメージを高め経営資源の獲得を目指す	◎小山町・静岡県 ○鉄道・バス・タクシー事業者 ○地域住民 ○企業等	取り組みの展開						
	新たなまちづくりインパクトの活用	◇新東名高速道路及び東名高速道路のスマートインター整備による広域公共交通網の拡大を活用した交流の活性化を検討 ◇地域のまちづくり計画策定時に検討された公共交通による移動の確保の実現と地域間交流の促進	◎小山町・静岡県 ○鉄道・バス・タクシー事業者 ○地域住民 ○企業等	準備	整備					
(12) 持続的な公共交通へ向けて	利用状況のモニタリング	◇利用者実態に応じて、適正なバス運行へと改善していくため、利用実態調査や乗降調査、評価等のアンケート等のモニタリングの継続的な実施 ◇利用者数の集計方法の定型化を図り、モニタリング方法を確立	◎小山町 ◎鉄道・バス・タクシー事業者	各事業のモニタリング						・モニタリングと評価の実施 ・公共交通計画の見直し・改定
	次期公共交通計画の策定	◇各事業のモニタリングによる進捗や利用者の意見等による見直し ◇法整備状況、まちづくりの進捗、公共交通の醸成等の変化に応じた新たな公共交通計画を策定	◎小山町 ◎鉄道・バス・タクシー事業者 ○地域住民 ○企業等	評価・次期計画策定						

●計画推進事業等の支援を活用しながら推進する事業 ◇その他の事業により推進する事業
◎中心となって実施・推進する組織 ●新規事業
○中心となる組織と協力して取り組む組織 ●継続事業(既に実施しており、今後も継続的に実施する事業) →準備

将来の地域公共交通網のイメージ

